

石見銀山遺跡調査ノート 3

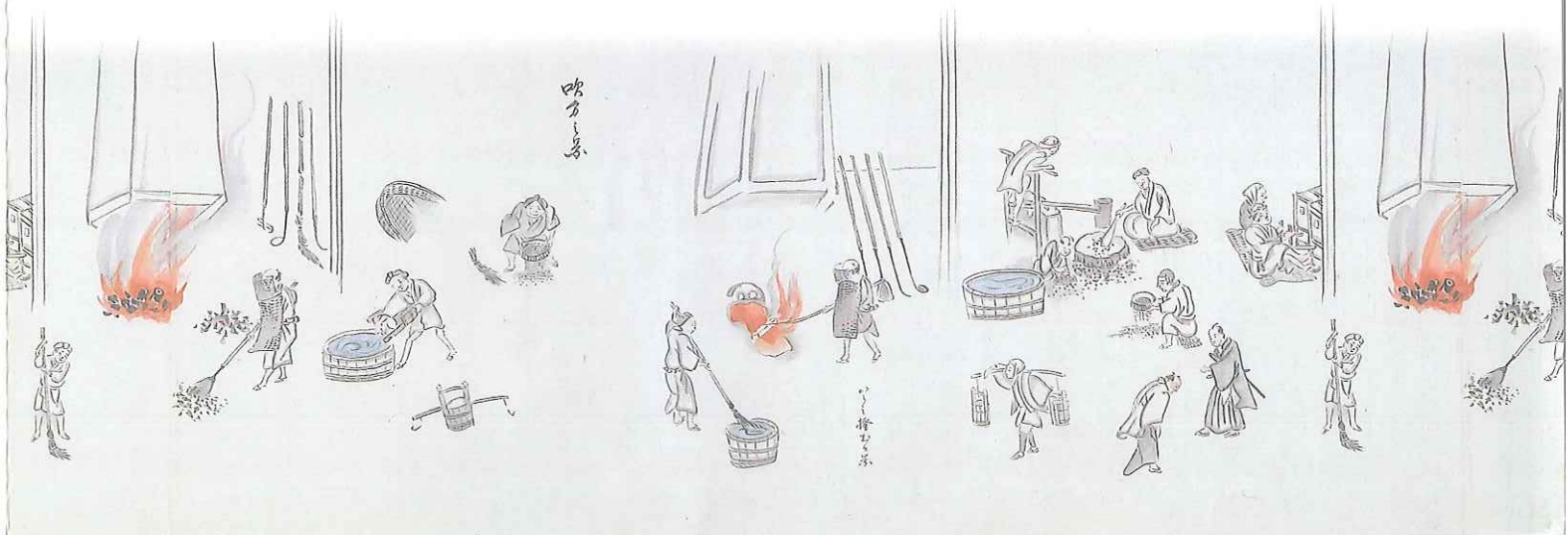
Iwami-Ginzan Silver Mine Site Research Note Mar. 2004 No.3

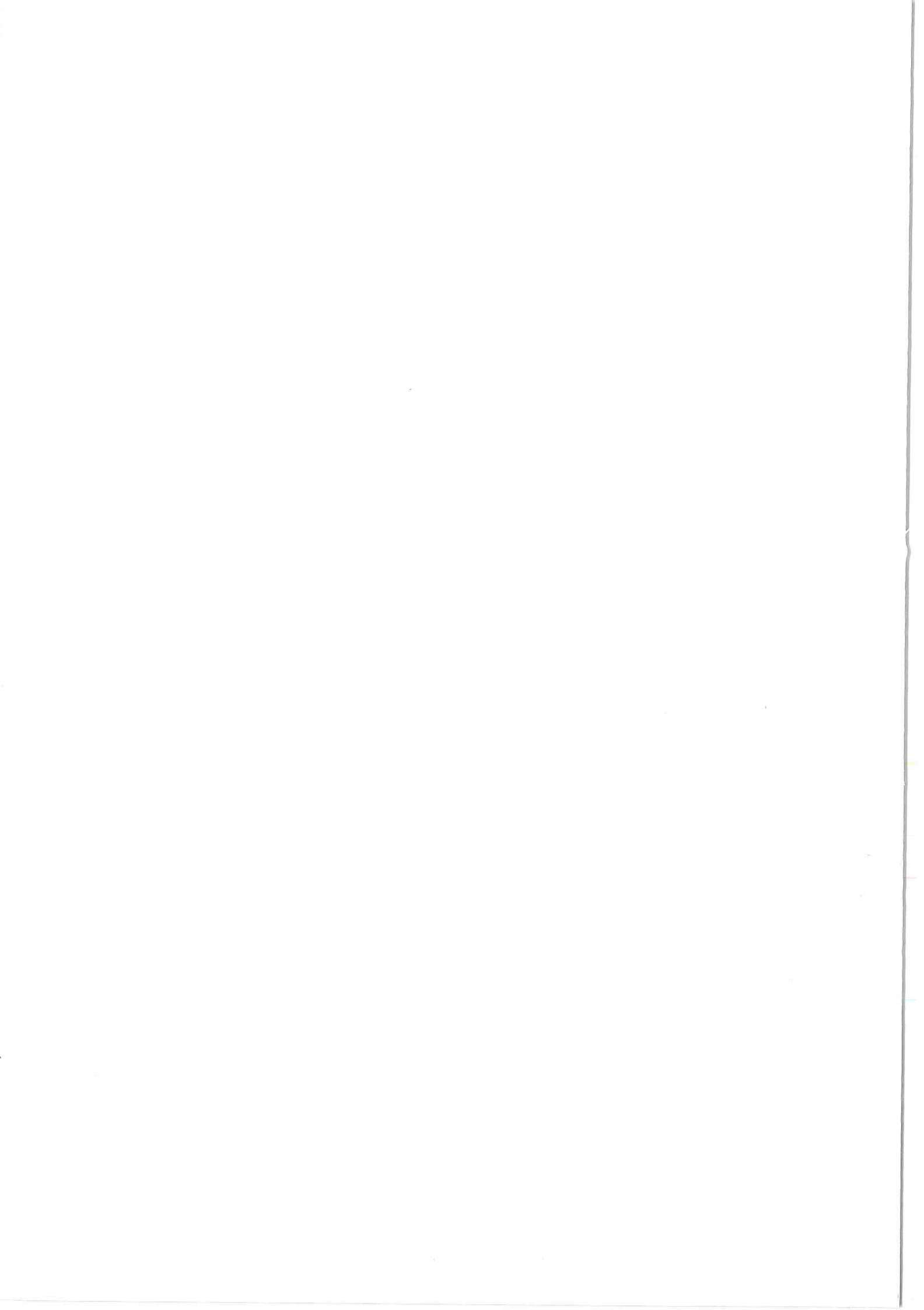


平成15年度版

2004.3

島根県教育委員会
大田市教育委員会
温泉津町教育委員会
仁摩町教育委員会

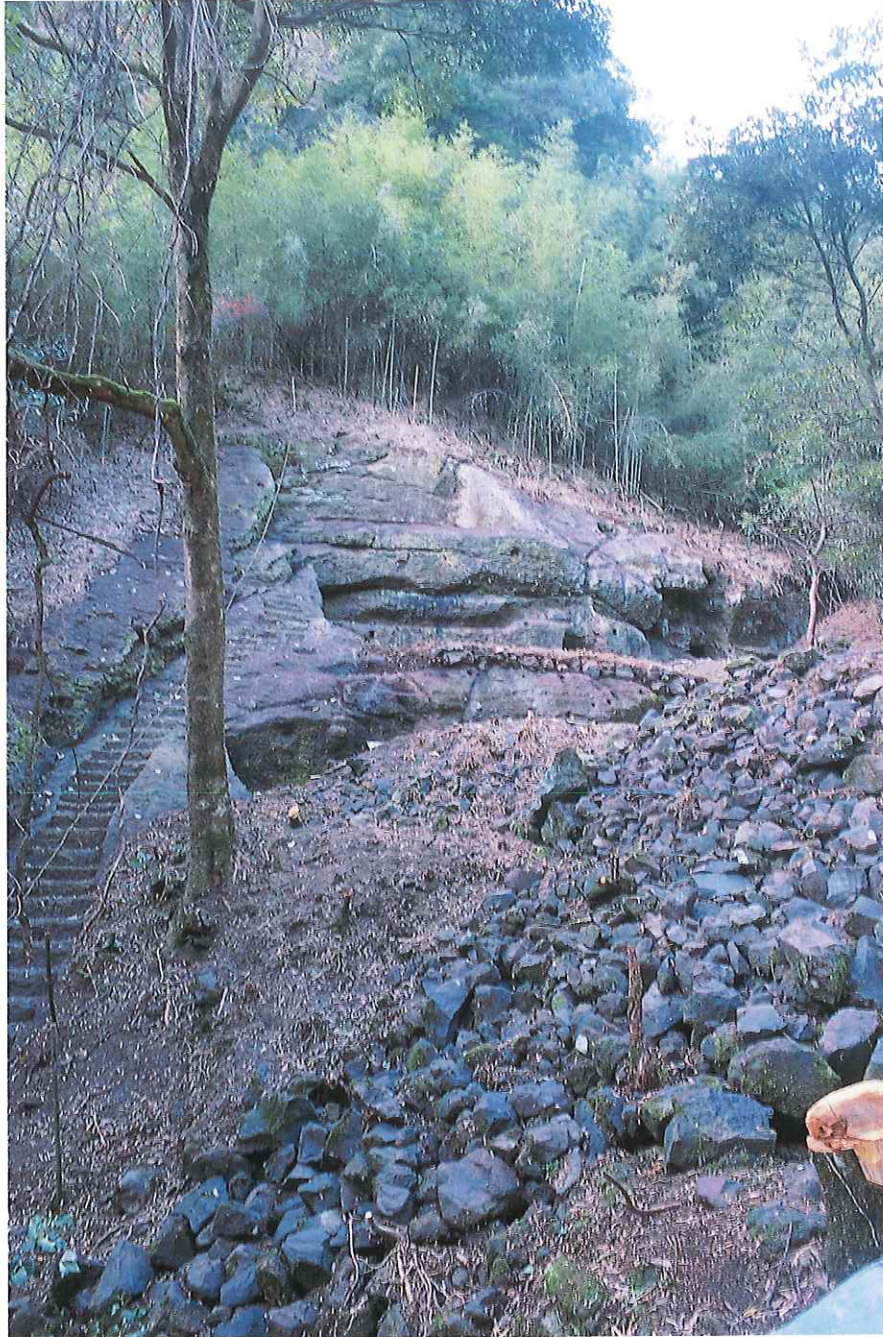




石見銀山遺跡調査ノート 3

Iwami-Ginzan Silver Mine Site Research Note Mar. 2004 No.3

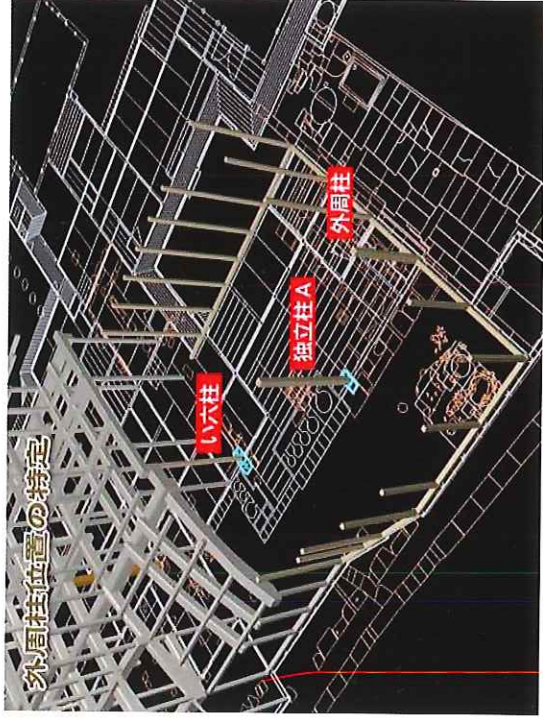
表紙デザインは「御取納丁銀」（島根県）と「石見銀山絵巻」（中村俊郎氏）を図案化したものです。



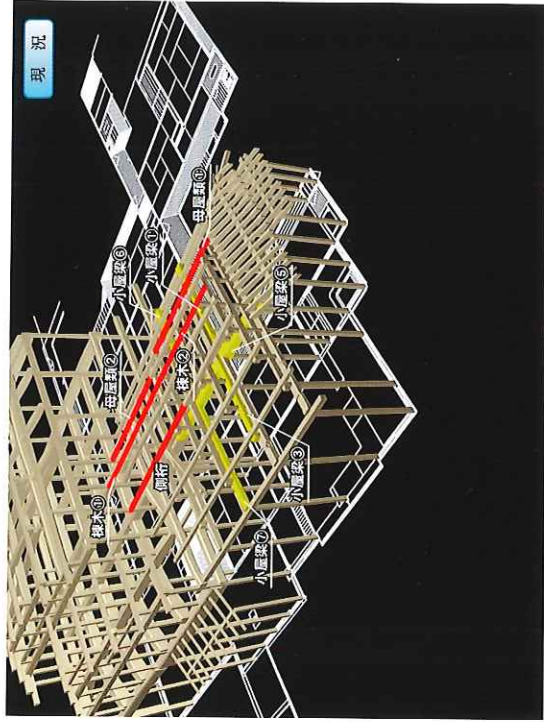
口絵1 本谷地区釜屋間歩付近の検出遺構



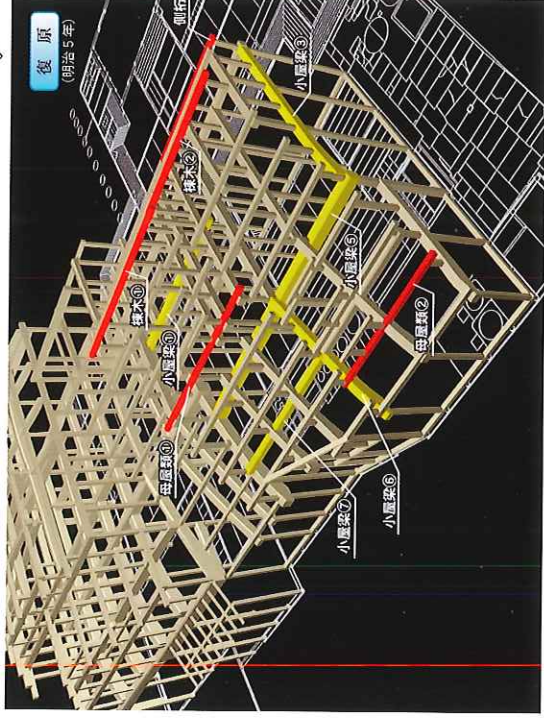
1) 遺構図と古絵図の照合



2) 柱位置図



4) 現況軸組図



3) 復原軸組図



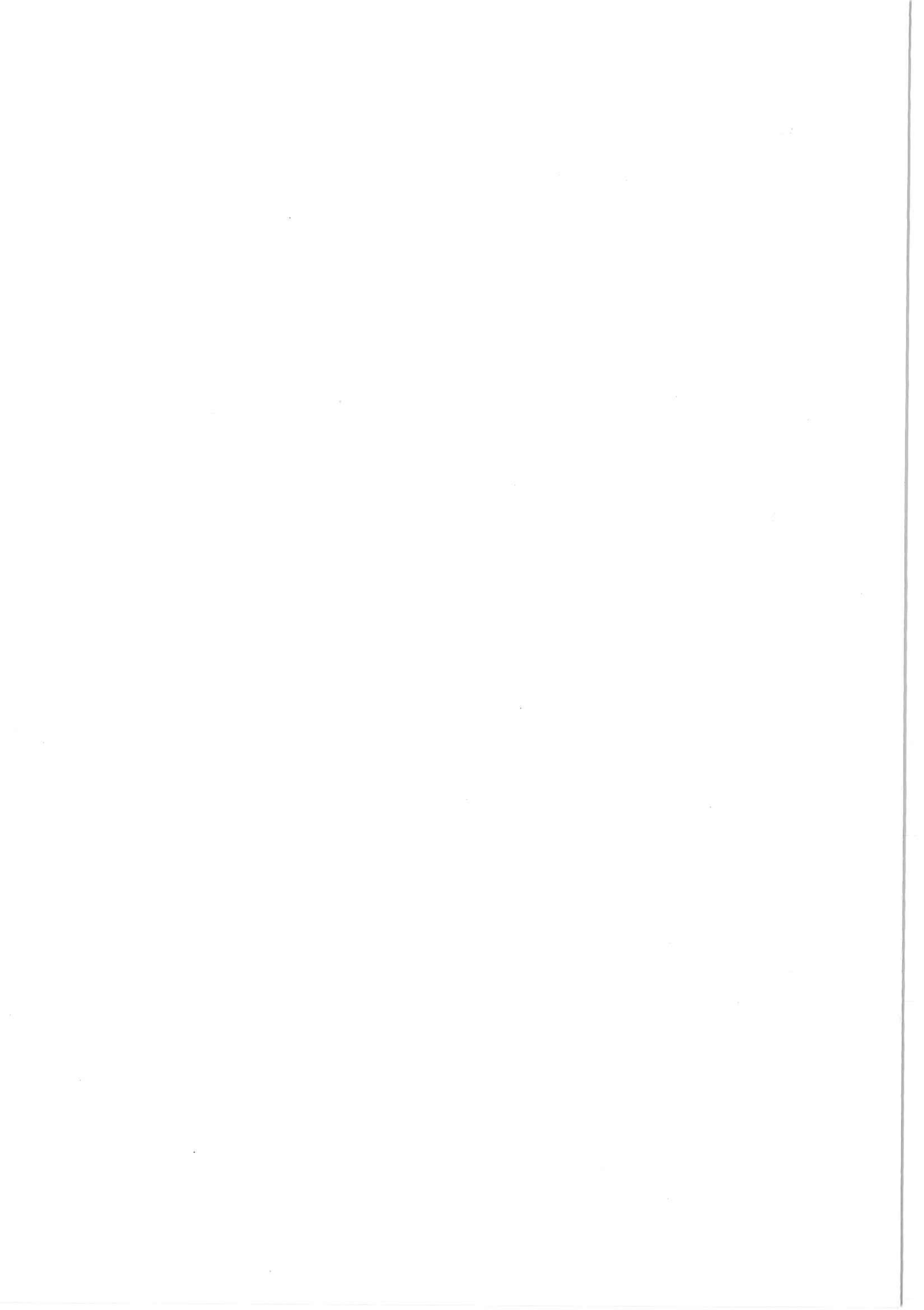
口絵2 重要文化財旧熊谷家住宅保存修理事業における現状変更の3次元シミュレーション

■凡例

1. 本書は島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会が実施する石見銀山遺跡の諸調査に関わる事業の概要を中心にまとめたものである。
2. 内容は平成15年（2003）度に行った調査事業の概要を記した年次報告と、調査に携わった関係者の小レポート・資料紹介からなる調査ノートの大きく2部構成になり、併せて関連する情報を加えた。
3. 詳しい調査の内容は、各調査ごとに刊行する報告書を参考するなり、調査主体者に問い合わせいただきたい。
4. 本書の編集は、島根県教育庁文化財課世界遺産登録推進室で行った。これら諸調査に際して御協力いただいた関係各位にお礼申し上げますとともに、本書が今後の石見銀山の調査研究や整備活用のための基礎的な情報として活用いただければ幸いである。

■目次

I 石見銀山遺跡総合調査の概要	1	
1. 発掘調査の概要	1	
2. 歴史文献調査団の調査動向及び成果	3	
3. 街道調査の概要	9	
4. 石造物調査及び関連事業の概要	11	
5. 科学調査及び関連事業の概要	12	
II 石見銀山遺跡関連事業の概要	13	
1. 大森銀山地区町並み保存地区の保存修理・整備活用事業（大田市）	13	
2. 温泉津町並み保存地区保存事業の動向（温泉津町）	15	
3. 整備活用・情報発信等事業（県・大田市・大田市外2町広域行政組合）	16	
III 資料紹介・小報告	18	
1. 石見銀山関連の新出史料	目次謙一	18
2. 石見銀山遺跡の古植生の検討	遠藤浩巳	19
3. 羅漢寺五百羅漢の造立棟札	鳥谷芳雄	22
IV 報告書・出版物情報（2003.4～2004.3）および補遺	28	
V 平成15年度石見銀山遺跡調査等関係者	40	
VI 平成15年度石見銀山遺跡調査箇所位置図	45	
VII 石見銀山街道（鞆ヶ浦道・温泉津沖泊道）ルート図	47	
VIII 平成15年度サイン整備事業設置箇所位置図	48	



■口絵解説

1. 本谷地区釜屋間歩付近で検出された岩盤加工遺構

本年度の石見銀山遺跡（銀山柵内）本谷地区発掘調査で、釜屋間歩付近で検出された岩盤加工遺構である。中央に3段にわたって加工段があり、左手には最上段につながる階段が削り出されている。

2. 重要文化財旧熊谷家住宅保存修理事業における現状変更の3次元シミュレーション

（提供：文化庁、(財)文化財建造物保存技術協会、計測リサーチコンサルタント）

重文旧熊谷家住宅の保存修理事業では、台所の現状変更に関する調査報告及び考察について、写真、3次元レーザースキャナ計測データ、3次元CG動画などのマルチメディア技術を利用して可視化した。これによって現状変更を判りやすく伝えることができる。

－1 遺構図と古絵図の照合

発掘調査に基づく台所遺構図と古絵図（明治5年作）を重ね合わせたところ、柱位置、台所外周、大釜の位置が一致することが判明した。

－2 柱位置図

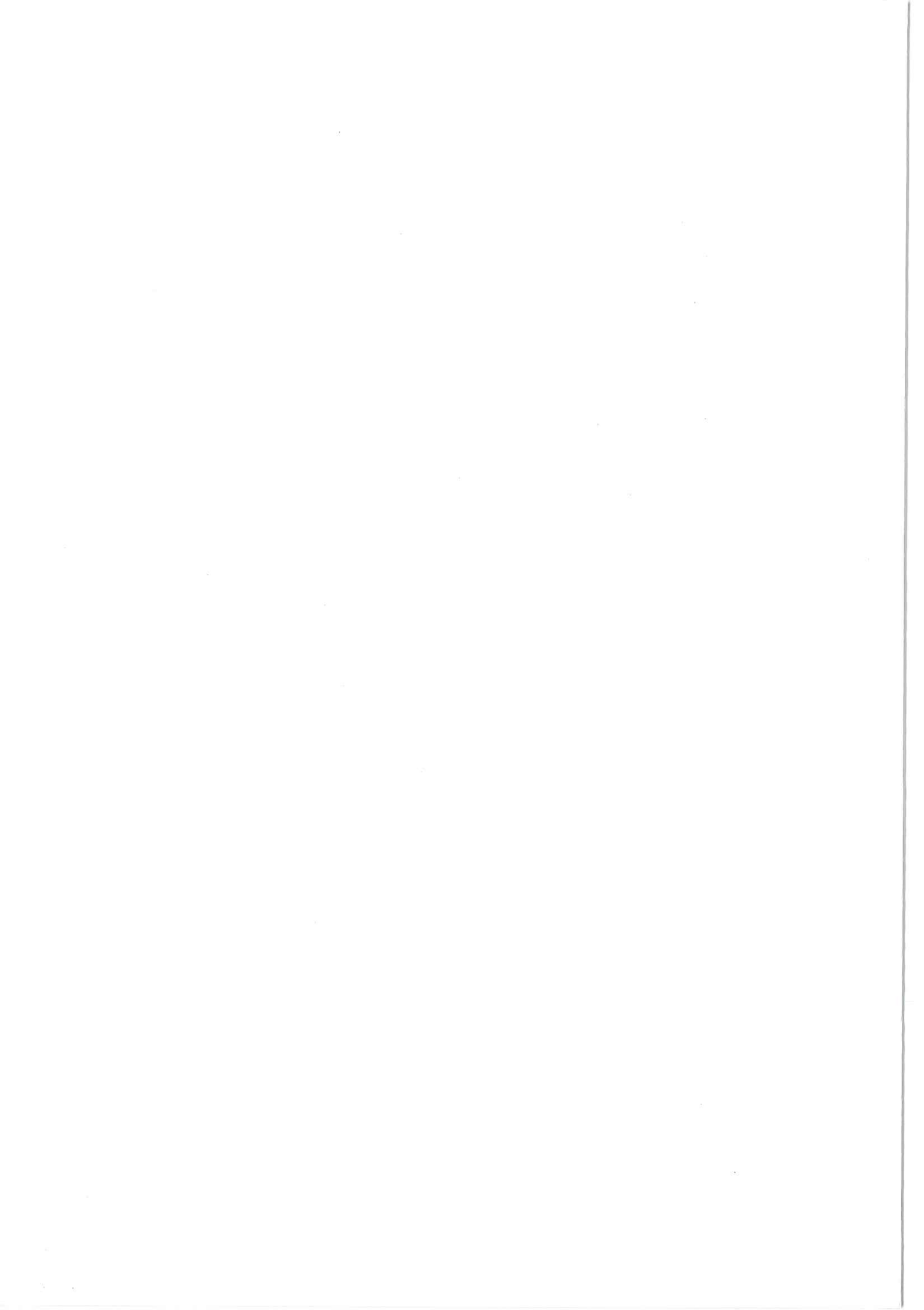
古絵図に描かれた柱をもとにして台所外周の柱と独立柱の位置を特定した。

－3 復原軸組図

古写真、転用材（図中の赤・黄）をもとにして小屋組を復原した。古写真から読みとれる尾根形状、転用材の加工痕、寸法などを考察し、復原位置を特定した。

－4 現状軸組図

台所は戦後に規模を縮小して今日に至っている。転用材の現状位置を赤・黄で示している。



I 石見銀山遺跡総合調査の概要

1. 発掘調査の概要

平成15年度は、本谷地区、宮ノ前地区、下河原地区、出土谷地区の4地区においてトレンチを中心とした調査をおこなった。概要は以下のとおりである。

(1) 本谷地区 (第1年次)

石銀藤田地区から標高差40mほどを下った露頭掘り跡に接して1トレンチを設定。仙ノ山中腹の釜屋間歩の隣接地に2・3トレンチを設定して調査を行った。

・本谷本間歩上1トレンチ

標高422mの谷底部に造成された平坦面に2×6mのトレンチを設定して調査を行った。トレンチの南西側には斜面に直交する形で露頭掘りの跡が見られる。調査の結果16世紀末～17世紀前半の作業面が9面確認された。

・本谷釜屋2トレンチ

釜屋間歩の東南隣接地に造成された標高357m付近の平坦面に2×7mのトレンチを設定して調査を行った。調査地では近代のボーリング調査によるコアや基礎石が地表面に露出し、一部下層に攪乱が及んでいることが予想され、調査の結果2本のボーリング坑(径20cm)と一辺1.5m、深さ1.5mの攪乱坑を確認した。検出した遺構面はトレンチ東側では18世紀代と17世紀前半の2面である。17世紀前半の遺構面では8基以上の炉跡を確認した。

・本谷釜屋3トレンチ

釜屋間歩の東側隣接地に造成された標高361m付近の平坦面に2×4mのトレンチを設定して調査を行った。17世紀前半以降の遺構面が3面以上存在することが確認できた。このトレンチ内の表土下から貴鉛が出土した。

上記のトレンチ調査によって、遅くとも近世初頭頃には本谷での操業が始まっていたことを確認した。また、釜屋間歩付近では18世紀代にも規模を縮小しつつ鉱山経営による諸活動が行われていたことが推測される。

この他、トレンチ調査に付随する形で行った周辺の竹林、雑木などの伐採、清掃作業によって岩盤を加工した遺構が確認された。石見銀山遺跡の大半は竹林や雑木が繁茂している現状をみれば、このような立体的な遺構についても数多く埋もれていると推定される。

(2) 宮ノ前地区

トレンチを2カ所に設定した。1カ所は銀山川河畔から南東方向へ延びる谷部の県道から約100mの場所に第1トレンチを設定。県道に伴う調査地点から東へ20mに第2トレンチを設定した。

・宮ノ前第1トレンチ

鉄砲玉1が出土した。下層は青灰色粘土が厚く堆積しており、遺構面は検出されなかった。

・宮ノ前第2トレンチ

17世紀初頭の石列と礎石を確認した。石列の方向は、県道調査で明らかとなった地点と同一方

向であり、「町立て」がなされた箇所である可能性が窺えた。

県道での調査結果を踏まえると、遺構の中心は県道4区といわれる製錬工房付近を中心として展開していることが想定された。

銀山柵内以外で検出された初めての製錬遺構であり、その作業内容や作業管理者がどのようなものだったのか、町立ての存在とあわせて、この箇所が石見銀山遺跡のなかでも重要な一部分であることが判明した。

(3) 下河原地区

・下河原第1トレンチ

17世紀初頭の遺物を含むズリ、カラミが約1mの厚さで堆積していた。これを除くと木製品を伴って、礎石建物跡を検出した。

選鉱、製錬の過程で排出されるズリ・カラミ層がどのように処分されたのか、銀生産工程を解明する上で重要な課題であった。河川の水位などから下河原第1トレンチ付近では、敷き詰めて土地の嵩上げなどを行ったことも考えられ、柵内においてズリ・カラミを再利用をおこなった可能性を窺う調査例となった。

・下河原第2トレンチ

岩石を含む黄色粘土質土が厚さ約50cm堆積していた。これを除去したところ、炭化物、焼土、など含む層に伴った礎石を検出。下層確認では近世初頭に遡る石積みを確認した。

上層の堆積土の由来を背後の山地から流出したものと判断され、災害などの土地履歴の状況を窺える資料となった。検出の遺構では時代が隔った溝の重複が認められた。

下層確認では、遺物包含層の厚い堆積が見られ、毛利氏支配下からの由来のある下河原地区が16世紀に遡る可能性を示した。

(4) 出土谷地区 (第5年次)

平坦面と水路との関係を確認するため、水路の上流部分に小規模なトレンチを6箇所設定し、掘り下げを行った。

トレンチから「・森鉱山所」との記名のある陶磁器が出土した。これは明治20(1887)年に設置された「大森鉱山所」であると断定される。

「大森鉱山所」は、翌年に「大森鉱山事務所」と改められており、1年間という極めて限定的な年代を示す陶磁器である。

「大森鉱山所」関連の施設が整備された図面類の記録が残されており、現存する遺構との比較対照によってさらに具体的な生産の状況が判明することが期待される。また、近代の石見銀山遺跡を考察する上で重要な資料となると考えられよう。

(5) 調査概要の刊行

『石見銀山遺跡発掘調査概要14 本谷地区・宮ノ前地区・下河原地区・出土谷地区』の刊行。

2. 歴史文献調査団の調査動向及び成果

2003年度、調査団では石見銀山・石見銀そのものの研究に加えて、周辺地域や近接する諸鉱山との経済的・社会的な関係について、また石見銀山と他地域の鉱山との関係について、研究に力点をおいた。このために島根県内外の広範囲にわたる史料調査を実施している。史料の所蔵状況の調査からはじまり、所蔵者の協力をえながら、整理・撮影・目録作成をしており、保存方法について助言を行うこともある。

また、石見銀及び日本銀の世界的な流通状況を知るために、海外関係の調査も継続して行っている。これまで収集した史料の翻訳・分析や世界の研究動向の調査に力を注いだ。

このようにして収集した史料や研究成果を活用するために、データベースを充実させるようにしている。さらに、広範囲にこの調査成果を知ってもらうために、一般公開も視野に入れている。

(1) 古文書調査の概要

・川上家文書（新潟県佐渡郡相川町）

実施日 2003年12月7日～10日

調査者 田中圭一・原田洋一郎・仲野義文・岩屋さおり・和田美幸

協力者 柳平則子・北見継仁・近藤貫海・本間澪子

この文書は、新潟県両津市和木町の川上家に所蔵されるもので、現在は相川町立郷土博物館に寄託されている。今回の調査では同博物館のご協力を得て、文書のすべてを撮影することができた。

さて、川上家文書には、江戸時代の慶長から元禄頃までの文書・記録が収められているが、慶長期とりわけ大久保長安支配時代のものがその中心を占めている。これらの多くは佐渡陣屋から駿府に居る長安の手代戸田藤左衛門に宛てた書状（案文）であり、当該期の佐渡金銀山の支配や経営の実態を知る上での重要な史料となっている。

また、石見との関係で言えば、この時期ともに大久保長安が奉行を勤めていることから、断片的ではあるものの石見に関する記述も文書中に散見される。これらは「石見銀山など盛申」の如き山の活況を述べたものが多いが、なかには「其地なまり山へ、山かうしやの者こし可申候由被仰下候、備中之なまり山仕候者三人、石見より参者二人右之者共召連杉針右近まいらせ候て御山貸可申由被申候間」といったように、石見の技術者の移動に関するものもある。さらに、人的交流の面では技術者間の交流もさることながら、宗岡佐渡や岩下惣太夫等の石見出身の地役人の活躍もこの文書から知ることができ、これらの文書を通じてあらためて石見と佐渡との相互の結びつきの深さを窺うことができる。

なお、この時期伊豆も大久保長安の支配下にあり、そのためこの文書には石見同様にその地のことも触れられている。それらの記述のなかには「石見にて林六兵衛にて死去被申候、其跡へは豆州より安部症九郎御遣候」とあるように、伊豆から石見に派遣された安部なる役人のことも見える。今後は、こうした石見と伊豆との関係についても、文書調査を通じてより具体的に明らかにしていく必要があるであろう。

・熊谷家文書（鳥根県大田市大森町）

実施日 2003年9月3日～6日（第9回目）

調査者 小林准士・瀧本裕氏・松原祥子・江角知紀・須山敦子・藤原健太・勝部裕子・
森田隆広・庄司幸恵・伊田昌文・藤原雄高・和田美幸

熊谷家は、江戸時代、幕府の直轄地である石見銀山料を支配した代官所が置かれていた大森町において、町役人とともに、代官所の掛屋や用達などを務めた。また、近世の初期には銀山師として石見銀山の経営に参画していたと伝えるが、中後期には掛屋を務める一方、酒造業を経営したり、近隣地域の鉄山経営などに出資したりしていた。

熊谷家文書自体は、現在、熊谷家の外に、鳥根大学附属図書館と京都大学法学部図書室にも一部が所蔵されている。鳥根大学の分は帳簿類が多いが、京都大学所蔵分はほぼ全て一紙文書である。いずれも元来、熊谷家に所蔵されていたものが売却されたものであろう。

これらの文書の特徴としては以下のことが指摘できる。まず、恐らく寛政12年（1800）の大森町大火の影響により、18世紀以前に作成された古文書の残存は少なく、19世紀しかも明治維新以前のものが大半である。そして注目すべき特徴としては、民事訴訟関係を中心とした一件袋や石見銀山料内の村々の宗旨人別改帳など、がんに大森代官所にあったと推測される文書群が多数混入している点である。おそらく、第二次幕長戦争開始後、長州藩の軍勢が押し寄せたために、大森代官所の役人たちが銀山料を退去する際に、熊谷家に預けたのであろう。このうち特に、一件袋に含まれている文書群は、関係する銀山料内の係争事件が多様である点、800点を超える量の多さの点で、非常に貴重なものであると言える。

もちろん、熊谷家が掛屋、用達、大森町役人として作成した文書群もまとめて残存している。熊谷家は掛屋として、銀山領内の村々から年貢銀を収納した上で、勘定や保管の任にあたりたり、大坂への輸送に関する仕事に携わったりした。また用達として、代官所で用いた備品の納入にあたりるとともに、その費用を村々から集めるなどしていた。このため、これら代官所の支配を下支えする業務に係る文書が多くは帳簿として残っているのである。また、この中には、「銀山入用銭」の管理に関わる帳簿も存在しており注目される。そして大森町の役人でもあったため、城上神社や五百羅漢など大森町に関係の深い宗教施設にまつわるものも含め、大森町の運営に係る文書や帳簿も多数ある。

次に調査状況について述べる。これまでの調査では、熊谷家の母屋、蔵、小蔵など、古文書の保管場所やその状況について確認した上で、収納状況に応じて史料単位を確定し、史料単位ごとに整理を進めてきた（尤も、保管場所や収納状況の全てについて現状記録を行ってきたわけではないことを断っておく）。まず袋に入った一件文書については、袋の上書き部分に基づきカードを作成し800点余を確認した。しかし、袋の中に入った冊子・一紙文書について、1点ごとに確認する作業は今後に残されている。また、多数のバラバラになっていた一紙文書についてもカード作成したが、これらと京都大学法学部図書室所蔵の一紙文書とは、その多くが一件文書の入った袋からこぼれ落ちたものと思われ、今後、文書同士を照合する仕事も残る。さらに、大森代官所にあったと思われる文書群と熊谷家にもともとあった文書群は混じり合っており、将来的には精査の上、区別できるようにすることが望ましい。

さて、今回の調査では、蔵の中にあつた柳行李のいくつかに入った文書を整理した。内容は様々

であったが、まとまった文書群としては幕末の京都の情勢を中心とした風説書があった。また、熊谷家が銀山の栃畑谷新口・真名鶴山間歩の経営に山師として携わっていたことを示す文書も見出された。幕末の風説書は大森代官所の役人のもとに送られたと思われるものもあり、これらについても分析の上、代官所所蔵のものであったかどうか、確認する必要があるであろう。

最後に、今後の調査の見通しであるが、未整理の史料単位のカード作成を進めるとともに、袋入りの一件文書の内容確認、熊谷家住宅の襖の下張り文書の整理（これらも袋入り一件文書と関係するものが多い）を引き続き進めていくことになる。

・小割家文書（大阪府富田林市）

実施日 2003年7月1日～2日

調査者 仲野義文・岩屋さおり・和田美幸・山崎美和

小割家は江戸時代、石見銀山の銀吹師および銀山町年寄であった。小割家の子孫はもと大森町に居住していたが、現在は大阪府へ移り、古文書も保管しておられる。昨年度に予備調査を兼ねて帳簿類の一部をマイクロフィルムで撮影し、今年度は残りの古文書をデジタルカメラで撮影した。古文書は、もとは椀が入っていたと思われる木箱一箱分と、段ボール2箱分がある。ほかに選鋳する時に使用した「ゆり盆」も所蔵している。古文書の内容を大別すると、1 鋳山関係（帳簿類・証書類）、2 近代の山林・土地関係の証書類（罫紙に書かれたもの）、3 山神社神主天野氏に関わるもの（親戚なので小割家で所持しているらしい）、4 小割家に関わるもの（葬儀の関係など）、5 印刷本（趣味に関わるもの）その他、となる。

銀吹師は諸山から出された鋳（鋳石）を購入し、灰吹銀・銀絞銅を生産して、それを売る（丁銀または銭に引替える）という機能をもっている。銀吹の人数は、『石見国銀山要集』によると享保11年（1726）には17名、文化13年（1816）には8名がいた。ところが幕末から明治にかけての小割家文書には、それまでに見えなかった小割・樋高・矢田という3名の名前しか見えなくなる。小割氏がいつ頃から銀吹を始めたのかは、史料からは不明である。

先にあげた分類のうち1 鋳山関係の史料についてだが、銀吹関係の帳簿は12冊あり、内容は灰吹銀と銭の引替えや灰吹入用などを記した「判打帳」や、「御用留」、「灰吹銀書上帳」などである。その他、町年寄として大坂御銀蔵へ同行した時に記した道程日記や、銀絞銅の請取覚書がある。銀絞銅を引受けた銅吹所には住友、熊屋、大坂屋駒太郎目、大坂屋又兵衛、岡屋、河嶋屋といった名前が見える。また灰吹銀引替銭についての山師との議定書では荷払いや引替銭を山方へ引き渡すように、などの取り決めが書かれており、興味深い。その他、吹入用の覚え書きを綴ったものや、質地証文や銀吹関係の証文などがあり、一紙物は90点余りがある。史料全体として時代は新しいものが多いが、銀吹師の史料としては初めて確認できたもので、銀吹師の仕組みがよく分かる貴重な史料といえる。

・中村家文書（島根県邑智郡桜江町大貫）

実施日 2003年8月8日～9日

調査者 田中圭一・原田洋一郎・仲野義文・岩屋さおり

この史料は、江戸期の鉄商人、鋳・鍛冶屋の経営者西田屋の文書である。江戸中後期の銀山方役

所の史料が含まれる。2002年4月に鳥根県教育センターを中心とした調査を通じて仮目録が作成されている。文献調査団としては、02年8月、9月の調査に続いて、03年の調査では、銀山方役所関係の帳簿類と製鉄に関する史料を収集した。

伝来の理由は明らかではないが、同家には「銀山方日記」、「大久保山日記」、「龍源寺山日記」など、銀山方役所関係の史料が多数伝えられている。これらの史料からは、江戸後期の御直山経営の実態を具体的に知ることができる。

安政4年(1857)「新横相御入用帳控」には、新横相のうちのある鉸筋の切延に関わる日々の入用銀の高が記録されている。これによれば、10日ごとにたいてい5尺ほどが切り延べられ、その入用は丁銀215~220匁であった。

産出した銀の売り上げのみでこれらの経費をまかなうことは到底不可能で、幕府からの拝借金などがしばしば用いられた。江戸後期には、それらはさまざまな名目で銀山料内外に一旦貸し付けられ、その利息が銀山入用に充てられていた。中村家の銀山方役所関係文書には、天保11年(1840)「御貸付利銀取立帳」など、諸種の貸付銀に関わる資料も含まれている。

御直山であっても、代官所直属ではない山師が下請けの形で多数関わっていた。文政3年(1820)の「龍源寺山御用日記」によれば、正月に24組の「仕手」に旧例に基づく祝儀として荒鍮(鉸石)が与えられている。仕手の多くは、銀山町の山師あるいは銀掘であり、稼ぎ入用は自力で調達された。仕手共が採鉸を行う際には山番所に「切地願」を提出した。この願は銀山方役所によって吟味されるが、ほぼ例外なく許可された。止める際には「上ヶ切地願」を提出したが、多くの場合、これを提出するとはほぼ同時にその付近を対象とした「切地願」が提出されており、「仕手」稼ぎは恒常的に行われていたといつてよい。

・法専寺文書(鳥根県大田市鳥井町)

実施日 2003年6月19日

調査者 田中圭一・仲野義文・和田美幸

大田市鳥井町にある浄土真宗法専寺の所蔵文書について実施した。この寺院は、元和3年(1617)の「御尋書之控」によれば、開祖龍玄は小笠原秀長の子息であり、天文年中の山吹城落城を機に、小笠原氏の家臣であった宮脇善五郎・細田善兵衛の誘いによって、銀山の八間見世に真言宗の満願寺を建立した、という。その後、真言宗から浄土真宗へと改宗し、さらに第2代常玄の時代には石山合戦の功績によって寺号を賜り、法専寺と改称した。なお、銀山から現所在地である鳥井への移転は寛永17年(1640)といわれる。

今回の調査は、同寺がかつて銀山にあった寺院であること、また小笠原氏ゆかりのそれであること、などを背景として実施したものである。文書としては、時代別と地区別の檀家過去帳があったが、時代別の過去帳は慶長から寛延までのもので、銀山から移転した寺院である関係、数は少ないものの檀家として銀山や大森に居住する者の名前も見られた。また、地区別は鳥井村近隣のものであるが、なかに「濱屋 先祖ハ銀山ヨリ当時後転ノ節、御本尊ト供ニテ引越スト言伝ヘリ」とあり、同寺が移転する際にともに銀山から当地に引っ越したことを伝承として述べるものもあった。このことは銀山居住者の移動を考える上で重要な問題であるとともに、それら諸家の追跡調査によって今後新たな史料の発見に望みをつなぐものとして期待されるところである。

・万屋文書（鳥根県邇摩郡温泉津町）

実施日 2003年10月30日～31日

調査者 原田洋一郎・仲野義文

温泉津町役場に所蔵される万屋文書について実施した。この文書はそれ自体が独立したものではなく、実際には木津屋文書の一部として収められている。したがって、本来なら木津屋文書として一括に扱うべきところであったが、所蔵の状態が万屋文書としてまとまっていたため同文書のみを対象として実施することとした。

万屋は、温泉津港を本拠とする廻船問屋の1つである。そのため同家文書のなかには土地や金銭の貸借証文のほかに、仕切状や蔵預り手形などといった問屋経営の一端を窺う史料が多く含まれている。これらはおもに石見国産の鉄や銑に関するもので、このうち仕切状では大坂や赤間関などの問屋との取り引きが認められ、これにより同家が近隣農村で生産される鉄の集荷問屋であったことが知られる。

また、文化2年（1805）の「銀子借用証文」によると、同家が保有する船として「明神丸」があったことがわかるが、残念ながらその規模については不明である。なお、寛政10年（1798）の仁万浦の客船帳によると同浦に入津する客船のなかに「万屋 基兵衛」の名が見える。おそらくは明神丸などの持船によって廻船活動を展開していたものと思われるが、これについては今後近隣の大浦や浜田等の港における客船帳での追跡が必要であろうと思われる。

・渡利家文書（鳥根県邇摩郡温泉津町湯里大字西田）

実施日 2003年10月31日

調査者 原田洋一郎・仲野義文

この史料は、江戸期の在郷町商人、町年寄家の文書である。街道調査の一環で調査が行われ、荒仕分けされて現在は温泉津町役場に保管されている。調査団の2003年の調査では、銀山間歩の諸入用帳の他、江戸末期の西田村の状況を把握するのに有用と思われる史料を数点収集した。

この渡利家の銀山稼ぎについては、「天保十五年辰十月吉日 勘定帳」など3冊の帳面から、天保15年（1844）の9月から11月にかけて、渡利家が関わった清水谷羽山（端山）の取り明け稼ぎについて知ることができる。いずれも山師水田甚七（亀谷屋）によって作成されたもので、修覆と採鉱の諸経費と、渡利家からもたらされた資金との差し引き勘定が記されている。経営の実務は水田が行い、渡利家は経営資金を担っていたようである。この2ヶ月の間にのべ約120人の銀掘が差し入れられ、経費として約43貫文の銭が用いられている。代官所からの御手当の銭1貫587文と産出した鍵の売り上げの銭6貫497文が、この稼行による収入で、大幅に支出がこれを上回っていることがわかる。

銀山方役所『萬留書抜』（野沢家文書）によれば、西田村渡利家は、この前年の天保14年（1843）にも、山師の佐伯常太・川島繁太とともに本谷新口間歩を稼ぎ、閏9月から11月29日までの間に灰吹銀631匁余りを製し、「灰吹銀出方は格別に御座無く候えども別て出精のもの共」として銀山方役所より銭3貫文の手当を与えられている。渡利家にすれば採算に合う事業ではなかったといえるが、渡利家がこの頃、銀山稼ぎへ積極的に関わっていたことがわかる。

・阿部家文書（鳥根県大田市大森町）

阿部家文書については2002年度に調査を行ったが、文書の分析等を今年度に完了したため、ここで報告する。

大久保長安の頃の石見銀山経営については、吉岡家文書・長野家文書に見ることが出来るが、この阿部家文書も石見銀山初期の史料としてはかなり重要なものである。

阿部家は江戸時代を通じて石見銀山附地役人を勤めた家で、遺宅は現在も大森町にあり、鳥根県指定文化財になっている。阿部家のご子孫は現在他所へ移り、古文書等についても自宅で保管されている。その他、石見銀山資料館へ寄託されている阿部家文書が約40点ある。（資料館寄託分については、阿部家遺宅の購入者が発見して寄託したもの。）阿部家で保管されている文書の総数は256点、その中に同じ地役人で阿部家の親戚にあたる宗岡家の文書が約70点含まれている。

まず宗岡家文書について言えば、石見銀山の初代奉行・大久保長安から差し出された書状が10点あり、これは今まで『石見国銀山文書』（内閣文庫）などの写でしか確認できなかった史料なので、大きな発見といえるだろう。また古いもので慶長3年（1598）「銀山大谷之内屋掛銭下札」は、これまで写でしか見られなかったものなので、貴重である。その他奉行・代官から宗岡氏に宛てた書状が、長安の後任である竹村丹後守から川崎平右衛門（宝暦12～明和4年在任）まで遺っている。その他面白い史料としては、宝暦10年（1760）、石見と生野産出の灰吹銀を一緒に江戸へ運送するようにとの命があり、宗岡などの地役人が生野へ行く際の行程日記などがある。

阿部家文書については、ほとんどが文化年間（19世紀初頭）から幕末にかけての書状・証書類で、ほかに勘定帳などの帳簿類、剣術や砲術の指南書、歌集などもある。阿部家には天保頃に阿部半蔵（光格）という地役人で絵師でもある人物がいたが、光格が描いたと思われる絵の習作が約200点、その他鎖帷子1点、陣笠（阿部家の家紋あり）1点、天秤1点を所蔵している。

大久保長安の書状について述べる。宗岡氏は毛利氏支配時代からの銀山役人で、徳川幕府になってからも引き続き地役人として抱えられた。長安は幕府直轄地である石見・佐渡・伊豆の鉾山開発を行い、技術や情報を交換することで各鉾山の増産をはかった。その中で宗岡弥右衛門（のちに佐渡の名を賜る）は、大久保長安の命により慶長8年（1603）佐渡へ渡り、同18年（1614）佐渡で死去した。阿部家所蔵の書状はほとんどが佐渡在島中の宗岡佐渡へ送ったもので、内容は佐渡金銀山の開発に関するものが中心だが、その中に石見・伊豆についても触れている。

（2）石見銀山歴史資料検索システム（データベース）

このデータベースは、年表カード、文献カード、文書カード、史料カード、史料の写真のそれぞれを独立して使用することもできれば、相互に関連させることもできるようになっている。検索についても、年代から、キーワードから、項目別に、全体で、と様々な方法で行うことができる。例えば全体の流れを示す年表から、特定の記事の年表カードへ、関連する文献カードへ、記事の根拠となった文書カードへ、史料カードへ、簡単に参照することができる。さらには、該当か所の史料の写真や読み下し、書き下し（外国語の場合は翻字、和訳）も参照することを可能とした。

3. 街道調査の概要

(1) 街道調査の概要

昨年度に引き続き、鞆ヶ浦道と温泉津沖泊道のルート決定を主目的に、街道成立をめぐる歴史的背景を明かにするため、現地踏査のほか、石造物・文献・歴史美術などの調査をさらに実施した。

[ルートの確定]

今年度は、温泉津沖泊道では降路坂付近について重点的に現地踏査を実施。鞆ヶ浦道については、高山北廻り道と高山南廻り道のいずれが銀鉱石・銀運搬の道として確定できるかが課題として残されていたので、この課題への取り組みに全力を注いだ。

すなわち、北廻り道には、銀鉱石運搬に関する伝承と物件が遺されているのに対し、南廻り道は、『元和石見国絵図』に銀山畑口から馬路までにいたる幹線道の記載がそれにあたと判断されたものの、銀鉱石・銀運搬の徴証がみられなかった。

このため調査が一旦は困難に直面したが、国絵図の所見をいただいた東亜大学教授川村博忠氏の指導や、銀山総合調査の過程で実施していた歴史文献研究会の報告、『温泉津町誌』、『銀山旧記』の記載などから現状における解決をみることになった。

銀山開発当初、大内氏が石見守護職であった時代、神屋寿禎らが銀鉱石運搬のため開拓した道は、大内氏守護領側であった高山北側（仁摩町側）であって、大内氏への運上銀の代償として通行保護を得るためにも、石見在来の領主層が割拠した南側（温泉津町側）ではなかったと想定された。高山南廻り道を幹線道とすることが可能になるのは、毛利氏が石見平定を行った16世紀後半になって、高山を挟んだ南北地域が政治的に一体化して後であって、高山南北地域を通過地とする最短コースである高山南廻り道が幹線道として成立したと判断した。しかし、すでにこの時には、毛利氏が石見平定を進める過程で、温泉津奉行・西田奉行を設置するなど、温泉津沖泊道が銀搬出道としても行政的に整備されており、高山南廻り道は銀山から馬路村への主要道として16世紀後半から17世紀初めの『元和石見国絵図』段階までは供用されたものの、その後の石見国絵図からは姿を消し、幹線道としては脱落したものと判断された。

ここに、鞆ヶ浦道のうち、北廻り道にのみ銀運搬の伝承やそれにまつわる物件がみられる事情が明確になるとともに、今まで知られていなかった、『元和石見国絵図』所載の銀山～馬路村への道筋も併せて明らかになった。

街道のルート確定や街道をめぐる社会背景を明かにするための諸調査については成果が多岐にわたり且つ豊富であるので報告書に譲る。

(2) 街道調査の動向

- ・ 4月7日 現地指導（池橋達雄氏）
- ・ 4月12日 現地指導（元群馬県立大学教授 田中圭一氏）
- ・ 4月26日 街道調査検討会（於：仁摩町中央公民館）

（島根女子短期大学長 藤岡大拙氏ほか調査員）

- ・ 6月11日 輸送手段（牛馬輸送）と街道に関する調査（於：財団法人 馬事文化財団
馬の博物館、横浜）
- ・ 6月17日 本山崎家文書調査
馬路・鞆ヶ浦付近の街道・輸送関連史料の調査。
- ・ 6月23日～7月6日 石造物調査（於：仁摩町・温泉津町）（宮本徳昭調査員ほか）
- ・ 6月26日～27日 街道現地指導（文化庁記念物課 磯村調査官）
- ・ 7月1日 西山崎家文書調査
馬路・鞆ヶ浦付近の街道・輸送関連史料の調査。
- ・ 7月9日 温泉津町教委蔵史料調査
- ・ 7月11日 建造物事前調査（仁摩町冠・温泉津町清水）（鳥取環境大学教授 浅川滋男氏）。
調査物件の選定
- ・ 7月15日 元和石見国絵図の調査指導（東亜大学教授 川村博忠氏）
絵図の銀山付近における記載情報の精度に関する指導
- ・ 7月15日～25日 石造物調査（於：仁摩町・温泉津町内）（宮本徳昭調査員ほか）
- ・ 7月23日 街道・集落・輸送に関する現地聞き取り調査（小林俊二氏より）
冠・上野付近の集落・寺社の成り立ち、牛馬輸送に関する情報聴取。
- ・ 7月25日 建造物事前調査（仁摩町冠・温泉津町清水） 調査物件の選定
- ・ 7月31日 歴史資料（美術）調査（本山崎家）
本因坊道策遺品の調査。
- ・ 8月4日～7日 石造物調査（於：沖泊）（宮本徳昭調査員ほか）
- ・ 8月18日～20日 建造物調査（仁摩町冠・温泉津町清水）（鳥取環境大学教授 浅川滋男氏、
同研究室生）。5件、実測調査を実施。
- ・ 8月27日～29日 西山崎家文書調査
馬路村（鞆ヶ浦）関係史料調査。
- ・ 9月3日～4日 渡利家文書調査
西田・温泉津付近における街道・輸送関連史料の調査。
- ・ 9月17日 熊谷家文書調査（於：鳥根大学附属図書館）
馬路・大国・西田村の伝馬関係史料の調査。
- ・ 9月19日 馬路村切り図調査（於：広島大学中央図書館）
- ・ 9月27日 田平家文書調査（於：千葉県船橋市）
大国村の集落・寺院関係資料の調査。
- ・ 10月10日 林家文書調査（於：鳥根大学附属図書館）
沖泊、鞆ヶ浦関係文書調査
- ・ 10月14日 本山崎家文書調査
馬路村切り図調査。
- ・ 10月22日 街道調査検討会議（於：鳥根県立博物館）
街道ルート決定等

- ・10月25日 建造物調査（於：本山崎家住宅）（鳥取環境大学教授 浅川滋男氏、同研究室生）。
実測調査を実施。
- ・12月1日 建造物現地指導（於：鞆ヶ浦、沖泊）（鳥取環境大学教授 浅川滋男氏）
- ・12月3日 報告書執筆者会議（於：鳥根県立博物館）
- ・12月9日 興隆寺文書ほか調査（於：山口県文書館）
馬路高山・邇摩郡と妙見信仰に関する史料調査。
- ・12月11日 本山崎家住宅 棟札調査

（3）街道測量等

- ・石見銀山街道空中写真測量図化業務（1：1,000）、平成14・15年度2ヵ年の継続事業。

（4）街道調査報告書の作成

- ・『石見銀山遺跡街道調査報告書－鞆ヶ浦道・温泉津沖泊道－』の刊行。

4. 石造物調査及び関連事業の概要

- ・石造物調査部会の開催（大田市大森町発掘調査事務所 2003.7.7）
今年度調査計画について検討協議。結果、当初計画を見直し、元極楽寺跡の悉皆調査を中止して大森地区の分布調査を実施することを計画する。
- ・石造物分布調査（大田市大森地区）2003.8.25～29
25日に打合会を行い、29日には成果報告会を行った。主な成果を挙げると、次の通りである。
 - ①墓地群は銀山川を境に、10ヵ所が西側の丘陵に偏って分布し、東側は3ヵ所と数が少ない。
 - ②大森地区で確認できた墓石の総数は5,000であり、うち西性寺（浄土真宗）墓地1,750と大音寺（浄土宗）墓地954で全体の56パーセントを占める。
 - ③全体的に18世紀代以降、墓石の造立数が急増しており、大森の町の人口動態を反映したものと推定される。
 - ④一部に17世紀を代表する墓塔である一石宝篋印塔・一石五輪塔が存在し、本格的に墓地が形成される以前にも零細ながら造営されていたところも認められた。
 - ⑤この他に特殊なものとして、明治年間に作成された陶製の墓標や、嘉永年間に建てられた「猫塚」の墓標が確認された。
- ・石造物分布補足調査（大田市大森地区）2003.8.1～3
- ・大森地区羅漢寺五百羅漢の調査 2003.5.12～23
- ・温泉津沖泊地区石造物分布調査 2003.7.15～25、12.15～17

- ・「石見銀山 石造物調査報告書（４）」の作成

昨年度に悉皆調査を実施した、長楽寺（真言宗）跡と石見銀山附地役人河島・宗岡両家墓地について関連資料と共にまとめ、調査報告書のシリーズ４を刊行した。

5. 科学調査及び関連事業の概要

- ・第１回科学調査部会の開催（大田市三瓶町、国立三瓶青年の家、2003.8.20）

前年度調査の確認と今年度の調査計画について協議

- ・第２回科学調査部会の開催（大田市大森町、石見銀山遺跡発掘調査事務所、2003.11.7）

- ・第３回科学調査部会の開催（大田市大森町、石見銀山遺跡発掘調査事務所、2004.2.9）

- ・発掘調査資料等の科学的分析（非破壊）と解析作業 本谷地区出土の貴鉛分析

- ・資料の科学的分析委託（委託者・島根県教育委員会、委託先・(株)コベルコ科研）

出土谷地区出土 SX01炉内土資料、及び宮ノ前地区出土の鉱石資料、土壁、羽口、炉壁の計16点の分析

- ・出土遺物の保存処理

石見銀山遺跡からこれまでに出土した金属製品の保存処理事業（事業主体：大田市教育委員会、国庫補助事業）

- ・その他の関連事業

①出土谷地区の炉跡遺構剥ぎ取り（県埋蔵文化財調査センター澤田、2003.12.8～9）

②石見銀山遺跡出土金属製品整理作業（県埋蔵文化財調査センター、2003.12～3）

写真撮影（デジタルカメラ）・番号付け、クリーニング、分類（用途・形状・劣化状態）、X線撮影を行なう。なお、今後は上記をもとに遺物カードを作成する予定である。

- ・シンポジウム『生産遺跡から探る「モノづくり」の歴史』第１回 金山・銀山の技術への参加（2004.2.29、於帝京大学山梨文化財研究所）

村上の基調講演に続き三つの特別講演、及び三つの事例報告があり合わせて発表者全員によるパネルディスカッションが行われた。なお、前日2月28日は山梨県立考古博物館と周辺史跡を見学。翌日3月1日はシンポ参加者で湯の奥金山博物館を見学した。科学調査関係では村上高田、鳥越、横山、足立、椿、澤田、柴崎、遠藤、松尾、尾村、熊谷の12名が参加した。

Ⅱ 石見銀山遺跡関連事業の概要

1. 大森銀山地区町並み保存地区の保存修理・整備活用事業（大田市）

（1）重要文化財旧熊谷家住宅保存活用事業

①重文旧熊谷家住宅保存活用検討委員会

第8回 平成15年6月2日（市役所）

（第1回は13年度実施、第2回～7回は14年度実施）

②建造物保存修理

屋敷地の景観が最も整った江戸末期から明治初年の姿に復原する現状変更が平成15年4月1日付で許可された。（口絵2の現状変更3次元シミュレーション参照。）

これにより、本格的に組立工事がスタートし、9月から主屋の組立に着手した。土蔵5棟のうち4棟については現状維持を基本とした組立工事に着手しており、ほぼ完成した。米蔵・雑蔵については全解体していたが、12月から組立に取りかかった。活用に必要な整備についてもこれまでに活用検討委員会でまとめられた活用計画にそった工事を開始した。指定物件の保存修理工事は17年8月、活用整備工事は17年12月に完成する予定である。

③家財調査

調査対象とした家財3291点の調査を終了した。8月には石見銀山講座（大田市外2町広域行政組合主催）の公開講座において、家財調査指導者の小泉和子氏の講演と調査スタッフの研究テーマ別発表をおこなった。会場となった文化財収蔵庫（水上町）は130名を超える聴講者で大盛況となった。なお、調査報告書を現在作成中で、平成16年度に刊行する予定である。

④工事現場一般公開

5月26日（月）に大森町民向けの工事現場公開を実施した。当日は大森幼稚園の子どもたちも来場し、土蔵の壁土塗りを体験した。10月26日（日）に開催した一般公開には約500名の見学者を迎えた。

（2）大森銀山重伝建地区保存修理事業の概要

今年度、地区内では住宅や社寺あわせて5件5棟の修理を行なった。また新築家屋や板塀など3件の修景を実施した。修理の内容は下記のとおりである。

①渡辺家主屋

イ368（MiW10） 鬼村良昭（建栄会鬼村工務店）

江戸末期の創建（推定）

宮ノ下地区。城上神社の北側にある民家で、大田へ向かうかつての街道に面した石垣の上に建てられている。

修理中に見つかった板図と現況の間取りに大きな違いはなかった。しかし現在は正面にしかない縁側が、板図にはさらに左奥へと続いて書かれており、解体途中の痕跡からも回り縁であったことが裏づけられた。

深刻なシロアリの被害を受け、柱が床下で折れていたり床東がスポンジ状になっていたため、建物の傾き、床のたわみが大きく危険であった。

そのため腐朽材の取替えや継木、矧木を行い、屋替えと壁の修復を行なった。

②加藤家主屋

ハ100 (SyW19) 田中博 (田中建設)

江戸末期の創建 (推定)

昭和区にある武家住宅の特徴を残す建物で、かつては医院として使われていた。

かつての式台を利用して3畳間を増築するなど改造されていたため、痕跡を基に下屋を撤去し元の大戸口や式台など当初の姿に復原することとした。

傾き起こしやレベル調整を行なうためには、通り土間の壁・天井の造作を撤去せざるを得ないことから、玄関土間部分は当初の小屋組みまで見せるよう表しとした。

縁側はかつて右奥へ続く回縁でかつ畳敷であったと考えられるが現在は改修後正面のみ残っている。あわせて8畳の表座敷の床の間は後の造作で、当初は仏壇部分が床の間だったことも分った。

修景ポイントである塀について、工事の都合で撤去された部分は門付きの板塀とし、ブロック塀は板を貼る修景を行なった。

③ (宗) 栄泉寺本堂

イ1542 (KoW9) (有)金田建築

文化4年(1807)再建(棟札)

駒の足にある曹洞宗の寺院で、竜宮門で知られている。棟札から、寛政12年(1800)3月大森大火の焼失後再建されていることがわかる。

屋根下地の経年による老朽化で雨漏りがひどく全体的に傷みも顕著であり、屋根替えや腐朽材の取替えなど大改修を行なうことになった。

調査により当初は本堂内部に階段や土間を設ける禅宗様式で、周囲の回廊もなかったことが分かった。ある時期畳の面積を増やすための改造として屋内の土間・階段部分に床を張り、外階段と回廊を設置したと考えられる。

所有者協議の結果、正面入り口の間口2間半において内部は土間に復原することとした。また背後に付属する開山堂とそれに至る渡り廊下にも雨漏りが生じていたため、あわせて屋根替えを行なった。

④ワイルズ家主屋

イ812-小 (RaS4) 神田幹夫 (神田建築)

明治初期 (推定)

羅漢町にある町屋で、アレキサンダー＝ワイルズ氏が購入しギャラリーとして活用している。

シロアリによる傷みが大きく、その被害は一階の側柱上の梁にまで及んでいた。また正面の下屋の弛みは地盤の不同沈下により発生したものである。

施主が以前に簡易な補強修理を施したことがあるが今回は本格的に半解体修理を行なった。

2階床の間の床框裏から、明治37年に当時の所有者上田嘉吉氏により大工美波定吉氏の手で造られたという墨書が見つかった。また欠けた板図からは建築年がなく番付けがわかる程度であったが、明治37年が建築の年なのか2階床の間周りの改造の年なのかは検証を要する。

⑤野口家主屋

ハ145 (SiE15) 鬼村良昭(建栄会鬼村工務店)

寛政12年(1800)創建(棟札)

新町にある山中家左隣の建物で散髪屋とろくろ細工を営んでいたが、十数年前から空家である。平成15年(2004)夏の長雨で屋根の一部が崩落したため、緊急に今年度での修理となった。

屋根裏から見つかった板図には川井勝之助により「寛政12年(1800)庚申7月吉日建之」と書かれていた。かつての絵図を見ても山中家左隣には川井という家が描かれている。これにより建築当時は川井氏の建物だったと考えられる。

当初は武家として建てられたものが老朽化し、明治に入って大改修が行なわれ、あわせて正面左側が増築されたと思われる。その後さらに散髪屋などに改造されていることが分った。

当初の修理方針は現状維持であったが、「途中見つかった大改修直後の痕跡」「武家時代の痕跡・部材の残存率の少なさ」により復原年代を明治期の改修直後の姿に変更した。(増築正面部分には間口を広くとってガラス戸が入っていたが、かつての建具(板戸・障子)の痕跡が見つかったためこれを復原することとした。)

野口家の例は、次の2点で今後の研究が必要である。ひとつは、寛政12年3月18日の大森大火で当家一帯は焼失したと考えられており、同年7月の建立は、現段階では最初の復興例となる。

次に、川井氏・山中氏とも地役人であり、いずれも後年の大改修は認められるものの町並みの中における武家の屋敷構えの比較考案をするデータとなる。

2. 温泉津町並み保存地区保存事業の動向(温泉津町)

- ・ 4 / 9 石見銀山遺跡関連事業庁内調整会議の設置、開催
石見銀山遺跡の世界遺産登録に向けた取組み、今後のスケジュール、
重伝建指定に向けた取組みの経過と今後のスケジュール、その他
- ・ 5 / 8 文化庁調査官現地指導
重伝建申請事務の進捗状況、平成15年度の取組み
- ・ 5 / 22 町議会全員協議会
町並み保存のスケジュール、その他
- ・ 6 / 4 第2回 庁内調整会議
町並み保存のスケジュール、その他
- ・ 6 / 6 町並み保存審議会

- 町並み保存のスケジュール、その他
- ・ 6 / 9 ~ 10 文化庁協議
 - 町並み保存のスケジュール、プロジェクトチーム、その他
- ・ 6 / 30 第3回 庁内調整会議
 - 要綱改正、文化庁協議内容、プロジェクトチーム
- ・ 6 / 30 ~ 7 / 1 文化庁調査官現地指導
 - プロジェクトチームによる推進体制、現地指導
- ・ 7 / 22 ~ 31 町並み保存説明会
 - 制度、範囲、スケジュール、その他
- ・ 7 / 30 ~ 31 文化庁調査官現地指導
 - 特定物件について（台帳整理状況）
- ・ 9 / 26 町並み保存審議会
 - 都市計画決定の事前協議、説明会の状況、条例改正、その他
- ・ 11 / 7 文化庁調査官現地指導
 - 都市計画決定の事前協議の経過、同意、スケジュール、その他
- ・ 12 / 6 町並み保存講演会、座談会
 - 「歴史的町並みを活かしたまちづくりを語ろう」
 - 「全国の町並み保存とまちづくり」、「大森町の町並み保存の16年」について
- ・ 12 / 9 ~ 18 町並み保存説明会
 - 都市計画決定の県事前協議等の状況、防災対策、今後のスケジュール、その他
- ・ 1 / 5 都市計画（原案）説明会
 - 名称、範囲
- ・ 1 / 8 ~ 23 都市計画公告・縦覧
- ・ 1 / 19 ~ 20 文化庁建造物課状況説明
 - 同意状況と今後のスケジュール
- ・ 1 / 29 伝建制度説明会（建築業者）
- ・ 1 / 30 町都市計画審議会
 - 名称、地区決定
- ・ 2 / 3 町並み保存審議会
 - 同意状況と重伝建選定申出
- ・ 2 / 9 伝建都市計画告示、保存計画告示、重伝建選定申出

3. 整備活用・情報発信等事業（県・大田市・大田市外2町広域行政組合）

(1) 整備活用関係事業

- ・ サイン整備事業（島根県教委）
 - 石見銀山遺跡及び周辺サイン等整備工事実施設計及び監理業務の委託
 - 同請負工事の実施・大田市大森地内における表示板等の設置工事（Ⅷの位置図を参照）

(2) 情報発信事業

- ・シンポジウム「石見銀山の原像を探る～世界遺産登録をめざして～」の開催（島根県教委主催、詳細はⅣを参照）
- ・国際シンポジウム「世界遺産と石見銀山遺跡～郷土の遺産から世界の遺産へ～」（島根県教委主催、詳細はⅣを参照）
- ・「第2回石見銀山講座」の開催（大田市外2町広域行政組合主催、詳細はⅣを参照）
- ・シンポジウム「ここまでわかった石見銀山Ⅱ」の開催（同上広域行政組合主催、同参照）

(3) その他の事業

- ・石見銀山遺跡世界遺産登録推薦書作成専門委員会の開催（島根県教委外）
第1回委員会を3/23に島根県東京事務所において開催
登録推薦書作成のためのコンセプト案の検討について他
- ・石見銀山遺跡関係次長会議の開催（島根県教委）
第1回会議の開催（6/20）
第2回会議の開催（2/4）

Ⅲ－1 石見銀山関連の新出史料

目次 謙一

本稿では平成15年（2003）島根県立博物館が収集した、石見銀山関連の新出史料1点を紹介する。本史料は一紙で縦28.7cm・横28.3cm、貼り紙等は見られない。福光（現温泉津町）の年貢米納入責任者と推測される森九郎の名代森孫左衛門が、貴志五郎介と山下小次郎の両名に宛て差し出した年貢米納入状である。年貢米6俵（4斗2升入り）は、慶長7年（1602）7月11日付で銀山大谷（現大田市大森町）の蔵へ納められた。

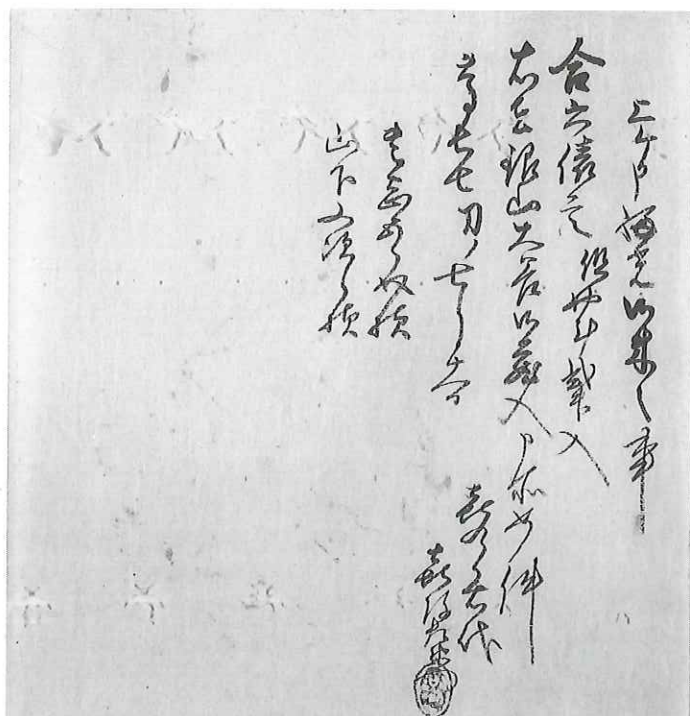
福光は関ヶ原合戦直後の慶長5年（1600）9月25日に徳川家康が発した禁制^①の対象に含まれ、早くから石見銀山とともに直轄支配されたと推定される。そのため、支配施設があった銀山現地へ年貢米が納入されているのであろう。慶長7年7月の時点では、前領主毛利氏の支配時期と同様に要害山麓の休谷へ支配施設が置かれていた。本史料に見える「蔵」のように、休谷に隣接する大谷にも関連施設が設けられていた可能性が考えられる。また注目すべきは、元和年間石見国絵図^②において大谷付近に「米蔵」として建物2棟が描かれている点である。詳細はなお検討を要するが、本史料の記述と一致する描写として興味深い。

以上のように、本史料は稀少な近世初頭の石見銀山関連史料であるうえ、慶長7年の時点で大谷に年貢米を納める蔵が存在するなど、現地の様相をうかがわせるものとして評価できよう。また、当該期の石見銀山地域の支配体系を検討する点でも注目すべき史料といえる。（島根県立博物館）

註（1）慶長5年（1600）「徳川家康禁制」（吉岡家文書）。村上ほか共編『江戸幕府石見銀山史料』1978所収。

（2）浜田市教育委員会所蔵。

『石見銀山遺跡総合調査報告書第1冊【遺跡の概要】』1999 p.45に掲載。



森孫左衛門年貢米納入状

森孫左衛門年貢米納入状

上ヶ申福光御米之事、

合六俵之、但四斗一升入、

右者銀山大谷御蔵入申所如件、

慶長七年刁ノ七月十一日 森九郎名代

森孫左衛門（黒印）

貴志五郎介様

山下小次郎様

Ⅲ－２ 石見銀山遺跡の古植生の検討

遠藤 浩巳

はじめに

総合調査が開始され、科学調査部会が検討課題としてきたことの一つに石見銀山遺跡の古植生がある。これは平成11年度開催した科学調査部会研究会における、美東町教育委員会の池田義文氏の報告「山口県長登銅山跡の発掘と科学調査」の中で、同遺跡で実施された花粉分析の結果から当時の植生を復原するという事例の紹介があったのが契機となっている⁽¹⁾。石見銀山遺跡においても同様な花粉やプラントオパール⁽²⁾の土壌分析を行うことによって、銀山が稼働していた当時の植生を復原することが可能と判断され、平成14年度に銀山山頂近くの石銀竹田地区の試料を採取し分析をおこなった⁽²⁾。ここではその分析概要を報告し、併せて銀山の植生についての若干の検討を試みたい。

1. 土壌分析調査

試料は石銀藤田地区のI区2点V区6点の計8点について花粉分析とプラントオパール分析をおこなった。I区の試料はNWトレンチの東壁土層、V区の試料は第3トレンチの南壁土層の採取である。I区の試料は出土陶磁器の年代観から戦国時代16世紀と推定される土層、V区第3トレンチは各層からの遺構遺物が確認されないという調査結果が得られた比較的明瞭に分層ができた土層である。

花粉分析の結果、全ての試料から花粉化石41種類が検出され、全試料を通じて花粉組成を特徴づける種類は、卓越木本花粉のマツ属（複維管束亜属）と栽培種花粉（栽培の可能性のあるものを含む）のイネ科（40ミクロン以上）がある。プラントオパール分析では全ての試料から十分な量のプラントオパール化石15種類が検出されている。

分析結果の考察では、次のI～IV帯の局地花粉帯が設定され、花粉帯対比から各花粉帯を示す年代観が推定された。このうち現在の竹林との関連で言えば、I帯（V区分析試料No.1）はマツ属（複維管束亜属）、スギ属が卓越することからイネ科花粉帯マツ～スギ亜帯（近代～現代）に対比される可能性が高いということ。またマダケ属型のプラント・オパールが検出され、これは近辺に分布するハチクに由来すると考えられ、発掘調査地点が現在見られるような竹林景観になったのはI帯の時期になった近代以降であったと推測される、という興味深い報告がなされている。

2. 銀山と竹林

石見銀山遺跡の中心となる柵内（仙ノ山一帯）の大部分は現況が山林となっており、そのうち竹林が広範囲に存在している。この竹林については石見銀山が鉱山として稼働して以来、作業に必要な竹製品（選鉱過程で使われた「えぶ」と呼ばれたざる、精錬作業の送風装置である吹子と羽口を繋ぐ送風管など）の原材料とするために人為的に持ち込まれたものが、吹屋（製錬所）などの建物の廃絶を画期として宅地跡を中心に繁茂し拡大したものと推察することができる。竹の種類にはモ

ウソウ、ハチク、クロコなどが知られており、遺跡の自然環境を特徴付ける構成要素となっている。

この竹林拡大は今日環境問題のひとつとして取り上げられることは周知のことであり、また遺跡保全という側面から言えば竹林の拡大や繁茂は保全を阻害する要因と言われることが多いが、一方で廃棄されたズリ・カラミの流出などを防ぐという保全の役割も果たしている。一部の地区では竹林の伐採とその後の草刈りを継続して行い経過を観察している。竹林の存在は憂慮すべき問題であるのは当然のことだが、一方で石見銀山史上いつから竹林が存在するようになったのかは素朴な疑問であった。今回の分析結果から竹林の拡大と繁茂については竹田地区とその周辺については、年代としては近代以降と推測されるという報告がなされ、一つの手がかりが得られたと考えている。

3. 銀山の植生

日本の鉱山は薪炭の原料として樹木は伐採され、数年後には山に木がないというのが常態であったといわれる。その顕著な例として鉄山が引き合いに出されるが、長期的操業が可能となった大規模銀山である石見銀山の植生は如何なるものであったのか。

長登鉱山の分析結果からは、原生林であるアカガシやシイノキが永年にわたって植生し、マツ属の出現が遅いので、官衙内の植生管理が行われていた可能性が示されている⁽³⁾。古代の官営長登銅山と安易な比較はできないが、文献史料に見える石見銀山の薪炭供給の実態は、銀山が本格的に稼働した17世紀初頭慶長期には大量の炭が外部から持ち込まれていることが読み取れ⁽⁴⁾、その後銀山に坑木などの材木を供給する御園村32ヶ村と薪炭を供給する炭方6ヶ村が定められている。これは幕府による鉱山経営の方策の一つとして、現地での薪炭生産量の不足、あるいは無計画な乱開発によりすでに樹木が存在せず薪炭生産不能により引き起こされた、供給不足を打開することを目的とした政策であり、更に言えば安定的、効率的な銀山経営を目的に、銀山を銀生産のみの場と位置づけることにより生み出された政策とも考えられる。推測の域は出ないが銀山の植生管理を意図した側面があったのかもしれない。例えば現地で確認できる石銀藤田地区の椿の大木群などは、灰吹法に使用される椿の生木と関連づけ、検討すべき事例と考えられる。

おわりに

分析結果については詳細な報告があり、科学調査部会で今後検討し報告書に掲載する予定である。今回の結果は石銀竹田地区の8点という限られた試料であり、遺跡全体の古植生を検討するためには資料不足であるのは否めない。継続的な実施により古植生、古環境を検討することは銀山史を考える上でも重要な調査であり、また将来の遺跡の保存管理や整備にも関わる重要な要素となると思われる。

(大田市石見銀山課)

注(1)『石見銀山遺跡科学調査報告書 平成10~12年度』(島根県教育委員会・大田市教育委員会、2002年3月)に科学調査研究会における報告の概要を掲載している。

(2)分析は大田市教育委員会が文化財調査コンサルタント株式会社(松江市下東川津町、担当:渡邊正巳)に委託して実施した。

(3)美東町教育委員会『長登銅山跡Ⅱ』(1993年)

(4)慶長5年(1600)「石見国銀山諸役請納書写」(『吉岡家文書』)など。

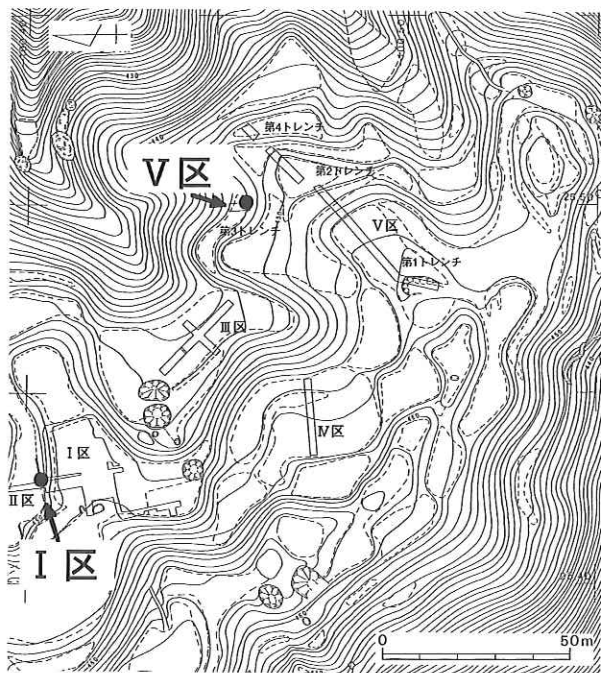
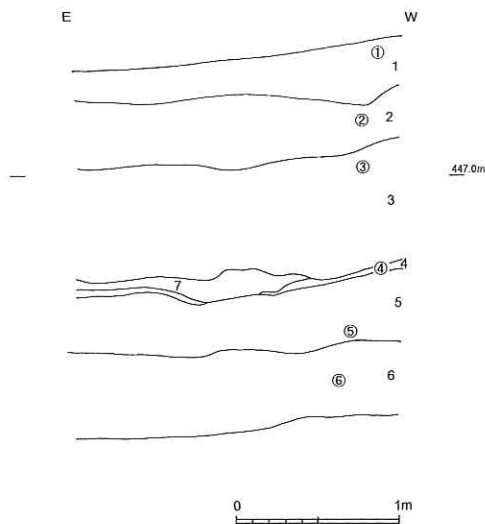


図1 調査区配置および試料採取地点



1:表土 黒褐色土 2:茶褐色砂質土 3:淡灰褐色土 砂質 4:炭層
5:黄灰色粘質土 6:淡黄粘質土 7:灰色粘質土(鉄分含む)

図2 V区土層図

石見銀山遺跡V区

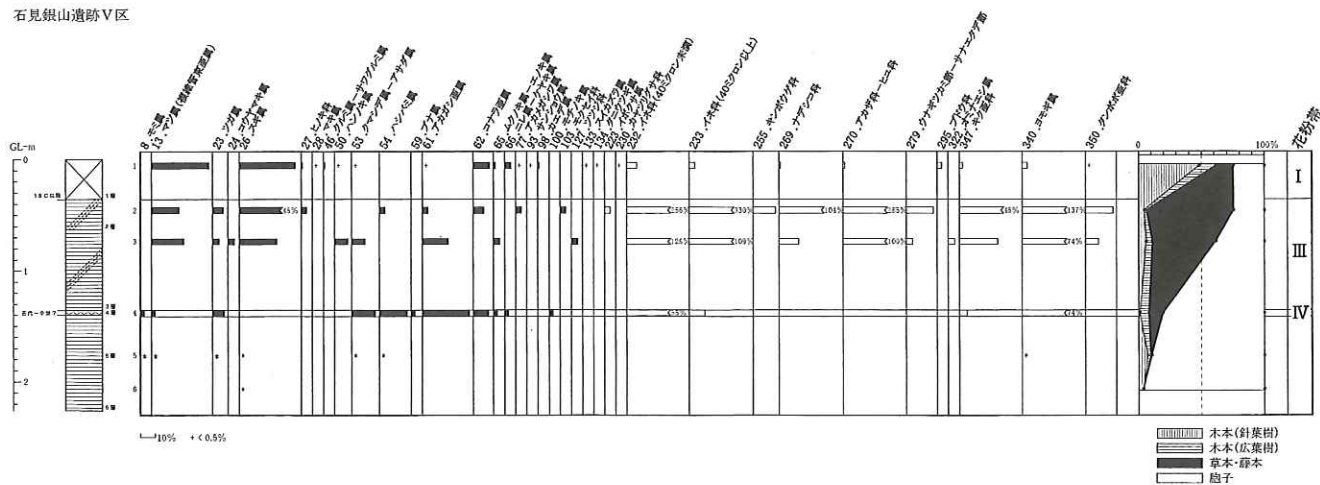


図3 V区の花粉ダイアグラム

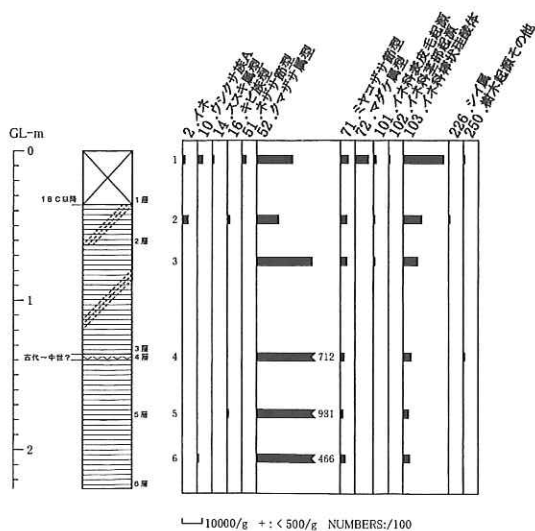


図4 V区のプラント・オパールダイアグラム

Ⅲ－３ 羅漢寺五百羅漢の造立棟札

鳥谷 芳雄

はじめに

ここに紹介するのは大田市大森町にある真言宗羅漢寺の五百羅漢の造像造窟に関する棟札、同寺の造営および鑄鐘に関する棟札、計3点の歴史資料である。羅漢寺五百羅漢は石見銀山遺跡の中にあつてはよく知られた信仰関連遺跡であり、県の有形文化財（彫刻）にも指定されているが、造像の経緯や寺史が知れる資料はそれほど多くなく、本棟札は貴重な資料になるものと思われる。

1. 資料の発見と伝来の経緯

本棟札は、大森町に所在する重要文化財旧熊谷家住宅の保存修理事業が始まった平成13年(2001)、同住宅内の一角から偶然に発見されたものである。虫損のため一部判読できないところがあるが、各々の記載内容および法量は次ページに示したとおりであり、3点とも羅漢寺に関連した棟札であることは明白である。

熊谷家は、屋号を田儀屋といい、代官所御用達、掛屋、酒造業を営み、大森町の町年寄を勤めた有力な商家であった。本来羅漢寺に伝来すべきものが何故ここに所在したのか、現段階でその経緯を明確にすることは出来ないが、羅漢寺が一時期無住の状態にあつたことや、本棟札中の「講中」上位に同家の名が確認できることなどからすると、ここに保管されていたのもそれほど不思議なことではないと思われる。

2. 五百羅漢の造立棟札

五百羅漢の造像と造窟に関する棟札は3点のなかでは最も大きく、形態は尖頭形で隅切りのないものである。表面は主題として明和3年(1766)の釈迦誕生日に当たる4月8日、釈迦三尊仏と五百羅漢を造立し、石室山羅漢律寺の岩窟に安座し奉ったことが記され、続いて開眼供養の導師、時の石見銀山代官、本願開山、羅漢窟の施主、講中、尊像棟梁、石窟棟梁とその石工などの名前が記入されている。

また、裏面は最初に功德を表わす偈頌の記入があり、以下、「無量寿院」と称してはじまる羅漢寺の起こりから五百羅漢の造立の経緯が長文で記されている。この間の関係者には石城山前住浄印をはじめ、浅岡彦四郎、遠藤兵右衛門、中山重光・賀光、中場定政、河北通賀等講中、川崎定孝、靈雲寺方丈、江戸城中、田安殿中など多数の名が記入されており、終わりは4月8日から14日までの7日間にわたって道俗老若貴賤男女を集めて開眼供養を営み、「皆共成仏道」を願わんと結ばれている。

3. 五百羅漢及び石窟の造立関係者

棟札に記された主な人物についてみると、川崎平右衛門(定孝)は銀山代官として宝暦12年(1762)から明和4年(1767)まで在任した。本棟札の筆者である苾芻亮鏝はこの開眼供養の導師を勤めた人物で、この当時邑智郡吾郷村に所在した弥勒寺の住職である。本願開山の月海浄印は大森町の中程にある石室山観世音寺の前住で、五百羅漢が完成する7年前の宝暦9年(1759)に没している。開眼供養時には彼の遺弟である同寺章道と興盛寺瑞光の二人がこれに加わるようになったようである。

霊雲寺は江戸湯島にあつて山号を宝林山と号し、元禄4年(1691)に創建された真言宗霊雲寺派の総本山である。先の川崎平右衛門が代官に就くに及んで羅漢造像に力が入り、本山であるこの霊雲寺第5世光海に協力が求められ、さらにそれが田安宗武をはじめとする江戸城内の援助を受けることとなったとされる。田安宗武(1715~71)は徳川8代将軍吉宗の第2子で、将軍家の一門である三卿の一つ、田安家の祖である。五百羅漢左手(三石谷川の下流側)にある花崗岩で製作された大型の宝篋印塔は、光海により完成から2年後に亡くなった宗武と、同夫人のために同地を選んで明和8年(1771)に建立されたものである(関連資料1参照)。

羅漢窟地の施主である中山庄兵衛重光は石見銀山附地役人の一人であり、この落慶の2年前の明和元年(1764)に亡くなり、中山代五賀光が跡を継いでいる。中場定政も同じ地役人の一人であり、宝暦9年(1759)に亡くなったとされる。

講中は全部で39名が記され、内訳は町年寄3名、組頭5名、その他31名であつて、一部大国の者を含むものの大森における当時の有力な商人層が名を連ねている。講中最初に名が見える吉田万兵衛久富は、3人目の町年寄吉田屋理兵衛都陸の父である。この時はすでに町年寄役を理兵衛に譲っていたのであろうが、五百羅漢の発願者であつたことから1番目に記されたものと思われる。町年寄役3名の筆頭者である泉屋甚右衛門は河北通賀のことであり、大森では当時最も有力な商人であつたことが知られる。

尊像棟梁の石工平七利忠はこの羅漢窟の釈迦三尊および五百羅漢の制作棟梁を務めた人である。平七は福光石工として知られる坪内氏一門の一人で、面屋(紙屋)の初代とされ、邇摩郡福光本郷(現温泉津町福光)に住していた。平七利忠はこの五百羅漢完成後の翌年、明和4年(1767)に70才で亡くなったとされる。

石室を穿った棟梁の和田宗四郎は、出自が明記されていないものの、隣国出雲国飯石郡三刀屋住の石工と考えてよい。落慶供養から53年経った文政2年(1819)、銀山附地役人の一人で中山重光の外孫にあたる阿部忠太郎によって造立された「無量寿院羅漢寺梗概碑」の背面に、「石工雲州三刀谷(屋)住和田源四郎幸常・和田門助幸英」とあり、和田氏は雲州の石工であると刻まれているからである(関連資料2参照)。

本棟札は五百羅漢および石窟の造立経緯と落慶供養時の状況が具体的に記されていて貴重である。なかでも町の重立衆を中心に組織された「講」の存在が知られるところとなりその構成員の名が明らかにされたこと、また、五百羅漢の尊像棟梁とその安置場所である羅漢石窟の制作棟梁の名が記されており、それが坪内平七と雲州三刀屋住の和田宗四郎であつたことが具体的になったことの意義は大きいと思われる。

なお、残る2点の棟札も羅漢寺がその後次第に寺観を整えていったことが知られる資料として貴重である。すなわち、五百羅漢の落慶から10年後の安永5年（1776）に本堂が建立され、さらに27年後の寛政5年（1793）には梵鐘が铸造されている。また、羅漢窟地の施主であった山中庄兵衛の名がこの棟札2枚にそれぞれ本堂本願施主、禱初願主として記されているのも注目される。

おわりに

これまで五百羅漢の造立経緯が分かる文献史料として知られていたのは、宝暦7年（1757）成立の「五百羅漢寺記」と「石州銀府石室山羅漢寺無量寿院記」である。この二つの史料はその年紀から明らかのように五百羅漢の造立途中のものである。これ以外には完成から23年後の寛政元年（1789）に記された「御巡見様御案内覚書」があり、また羅漢像に直接刻まれた銘文資料が知られている。

本棟札は五百羅漢が完成し落慶法要が営まれた時に記された直接資料であり、この遺跡の成立事情等を知る上で重要な資料が加わったと言ってよいであろう。

最後に、この資料紹介に当たり、ご協力いただいた大田市石見銀山課大國晴雄、西村崇司、林泰州の各氏に心から感謝申し上げる次第である。

参考文献

- (1) 三谷 晃「大森五百羅漢」『石見銀山叢話』（山根俊久編、島根県文化財愛護協会、1972）
- (2) 三谷 晃「大森五百羅漢像の銘文について」『季刊文化財』第8号（島根県文化財愛護協会、1969）
- (3) 藤間 亨「羅漢寺石造五百羅漢坐像群」『島根県大百科事典』（山陰中央新報社、1982）
- (4) 鳥谷芳雄「大田市羅漢寺の中央脇窟の石造物」『季刊文化財』第104（島根県文化財愛護協会、2003.3）
- (5) 「旧熊谷家住宅保存修理と熊谷家調査」『石見銀山遺跡ニュース』No.2（島根県教育委員会他、2001.11.1）

関連資料1 無量寿院羅漢寺梗概碑・文政二年（1819）
 （正面）
 先量壽院羅漢寺梗概碑（横書）
 正辰外曾祖中山重光篤信佛教家有無量壽佛尊像一軀欲創造一小堂供養焉者久矣其志未成而歿其將歿以願命外祖父賀光賀思之亦久矣時石城寺生月海律師本有石像五百羅漢之志賀光相與謀施捨三百水之地而成之矣今羅漢窟無量壽院是也語詳于律師合成之記遂欲立一碑勤律師之記事未遂歿矣爾後於今五十年矣正辰以為我今不成之二祖之蹟終泯二祖之靈恐有憾于黃墟是以索得一片石勤其梗概立諸石窟之側聊成二祖之志云
 文政己卯冬十月 外孫 阿部忠太郎正辰謹識
 石工雲州三刀谷住和田源四郎幸常・和田門助幸英

関連資料2 宝篋印塔・明和八年（1771）
 （左側面）
 寶篋印陀羅尼經說能於比塔一番一華禮拜供養八十億劫生死重罪一時消滅生免災殃死生佛家若有應隨阿鼻地獄若於比塔一禮一遶塞地獄門開菩提路其益無邊如經廣說今茲明和辛卯六月四日田安中納言從
 （右側面）
 請同州邑智郡彌勤寺主無染比丘修開光供養法要矣伏願以斯勝功尊靈早解三有之愛輪速遊五智之覺場云
 明和八年辛卯之冬江府寶林山靈雲寺第五住持傳秘密乘必芻光海謹識

（背面）
 三位宗武卿覺法号悠然院寬山圓休大居士奧夫人不勝哀病乃為追嚴尊靈之覺道自手印塔二千有餘予亦書写宝篋印神咒經一卷且命予掌造塔之事塔就納印塔及經本於塔內以建諸石州邇摩郡大森羅漢律寺而

羅漢寺・明和3年(1766)棟札

尖頭型、(隅切なし)

全長153.4cm、肩長150.6cm、肩幅29.0cm、下端幅26.0cm、厚x1.3cm

(表面)

大檀那大梵天王

当料官令川崎平右衛門尉

羅漢窟地施主

中山庄兵衛

講

※1

(バク) 奉新造立釈迦三尊五百羅漢石州邇摩郡大森石室山羅漢律寺巖穴安座

于時明和三丙戌年四月上八日
開眼供養導師弥勒寺苾芻亮鏡

遺弟綱維觀世音寺

中

※1

尊像棟梁

大願主帝釈天王

本願開山淨印月海老沙彌

章道、興盛寺

瑞光

中

※2

※1 (講中)

吉田万兵衛久富、町年寄泉屋甚右衛門通賀、同吉田屋理兵衛都陸、同田儀屋起右衛門住雄、組頭吉永屋源六周貞、同讚岐屋與右衛門元吉、同肥後屋嘉重郎明貞、同岡田屋龜之蒸繁治、同吉田屋治右衛門宣家、大國西屋善兵衛好章、土肥屋察右衛門貴熊、若松屋伸右衛門兼義、西田屋伊三郎通延、野田屋文右衛門延良、泉屋要右衛門通重、瀧本屋弥兵衛重友、讚岐屋重兵衛歲盛、米屋治平太政経、九屋徳右衛門元高、柳屋武右衛門元治、松嶋屋園右衛門一重、藏吉屋藤重郎宣教、白銀屋弘右衛門泰久、中村屋友七喜方、新枝屋増十郎政辰、今田屋幸八盈永、田村屋藤左衛門一重、吉田屋宗八一吾、博多屋藤十郎久遠、伊予屋嘉兵衛智真、加庭屋嘉惣治利起、美濃屋五兵衛洪斎、三國屋伊兵衛政重、山中屋佐兵衛秋房、薩摩屋孫八重為、幾久屋猶右衛門政浦、京屋□□□、釜屋久兵衛、藏吉屋政十□

※2 (尊像棟梁他)

尊像棟梁 石工平七利忠、石室棟梁 和田宗四郎、同石工新七、同石工太兵衛

(裏面)

一切日皆善

一切宿皆賢

(バン)

諸佛皆威徳

羅漢皆斷漏

以斯誠実言

願我常吉祥

※1

(シリ)

※1

竊以三界法皇之徳無所不至矣盛哉遺法広布之功無所不利焉仰之則六合安昌信之則其身齊□宣哉厥隆一念三千窓前諸法実相月朗三密五相床上現

※2 (講中)

田儀屋喜三太、泉屋勘重郎、田村屋藤三郎、博多屋藤十郎、京屋和兵衛、泉屋要右衛門、吉永屋嘉七、米屋治平太、美濃屋佐十郎、野田屋文右衛門、龜谷屋文兵衛、炭屋彦兵衛、刺賀屋利右衛門、藏吉屋政重郎、河内屋嘉助、若松屋伸右衛門、豆腐屋惣一、住田屋浅右衛門、釜屋利吉、正多屋多助、今田屋幸八、白銀屋弘右衛門、吉田屋茂兵衛、田中屋文野右衛門、嶋屋重八、中村屋友七九屋徳右衛門、柳屋宗五郎、薩摩屋孫八、瀧本屋弥兵衛、稲用屋治郎兵衛、緑屋久平、西田屋伊三郎、山中屋喜三郎

※3 (大工他)

大工棟梁 石賀小平治良信、小工 森脇豊八政家、木挽棟梁 大國村長兵衛

(裏面)

(バン) 一切日皆善、一切宿皆賢、諸佛皆威徳、羅漢皆斷漏、以斯誠実言、願我常吉祥 (シリ)

羅漢寺・寛政5年(1793) 棟札

尖頭型、隅切なし

全長123.0cm、肩長120.5cm (現存長115cm)、肩幅23.5cm、下端幅23.0cm
厚4.1cm

(表)

大檀那大梵天王

当料官令菅谷弥五郎殿

禱初願主

(キリク) 奉鑄造洪鐘一口石州近摩郡大森石室山羅漢寺

于時寛政五癸丑年四月十三日
供養導師波啼寺増鏡比丘

中山庄兵衛

講

大願主帝釈天王

当寺兼住甘南備寺天随沙弥

本願主浄山近住

中

(裏)

一切日皆善 一切宿皆賢 諸佛皆威徳

(バン)

羅漢皆斷漏 以斯誠実言 願我常吉祥

証菩提覺□□也雖頭「密派別殊体用其要唯在解脫無明証得大覺耳是故宿善婦女深持受之志有信君夫尤為當務之急施矣或建伽藍崇三宝又寄封戸助於經行誠有所以耶粵石州迹摩泉佐間村大森石室山」羅漢寺無量寿院者同処石城山前住淨印救寂所關而為武都靈雲寺之末寺焉蓋羅漢寺者根名尊光坊有銀山于吾鄉村弥勒寺之末寺印沙彌以之□末欲為羅漢寺而出願役所則意旨無滯受」容口占因仍而致送由於本山是淺岡彦四郎殿支配之間也其後淺氏不幾代石次令為遠藤兵右衛門殿支配及于宝曆七卯年江戶公・相濟自靈雲寺得賜改号羅漢寺之許牒矣當陳下土中山賀「光顧念其先考重光之遺命而寄布金地於此拾財建寺為羅漢寺而安光考持念佛之無量寿以為本尊具可充二口齋供等券契見記因茲号院無量寿已矣已止称羅漢寺者是開基正意樹五百聖」像為本斯由也既欲創□此寺之時開山淨／印布金賀／光本願羅漢發起中場定政附思巖屋□附河北通賢等熟談一決撰山寺院号是影顯互持之趣其意亦見記又從事於此講中諸人始未粉骨之功為令勿廢列名記表焉」抑於此辺域造立五百羅漢事大故印師存日刻彫尊像不足四分之一況於巖穴乎但粗穿小□耳印師常言此拳如是然亦二代三代之中可成就者吾何憶乎報命有限嗚呼疾逝矣時哉時哉當時官令 川定孝君浩氣篤實有公於忠有佛於信有敬尤奉法愛僧其高志可称耳于爰印師之俗兄智淨叟有印師即世之後飛錫開左寄靈雲寺在留既八十日可其中末」靈雲方丈之辭得内羅漢之化□於 公城即自城中下聖像百二十体施金其后相紹從田安殿中有賜同百軀之□施在揆矣由之元來有信之川崎君弄引所心願事於斯委附心於羅漢建成之地」政務之余英風凜然□□不廢信以誘他郡中□白奉上講儀彼此佐助護三歲間五三依正結構共成焉誠極能事績獨在官君耳矣焉信力所作是楚州之大盛事也這回依川君課觀光等□卒知事」請於三十五口之諸德始自四月八日迄同十四日一七日間經營開眼慶讚供養矣道俗老幼貴賤男女競集稽□莫不慶□無不嘆美自是法水永流期三會曉瑜伽鎮布利□□人皆共願成佛道□□

于明和三龍舎丙戌四月佛誕生□苾芻亮鏐謹識

羅漢寺・安永5年(1776)棟札

尖頭型、隅切なし

全長155.1cm、肩幅151.8cm、肩幅29.3cm、下端幅27.7cm、厚x1.0cm

(表面)

于時安永五丙申年四月八日	本堂本願施主
大檀那大梵天王	中山庄兵衛
當料御代官會田伊右衛門尉	講
銀山御支配川崎市之進尉	※2
助力施主	
(キリク) 奉新建立石州迹摩郡大森石室山羅漢寺本堂一字	十方諸人
當寺本願開山淨印月海老沙弥	中
二世兼帯住持弥勒寺苾芻亮鏐	町役人
當住職苾芻惠定尊智謹識	※1
	大工棟梁
	※3

※1(町役人)

吉田万兵衛、吉田屋理兵衛、讃岐屋與右衛門、肥後屋嘉重郎、岡田屋助五郎、吉田屋治右衛門、加庭屋嘉惣兵衛

IV 報告書・出版物情報（2003.4～2004.3）、および補遺

1. 調査報告書・記録集

- ・「石見銀山 石見銀山遺跡発掘調査概要14 本谷地区・宮ノ前地区・下河原地区・出土谷地区」
（島根県・大田市両教育委員会、2004.3）
- ・「石見銀山 石見銀山遺跡石造物調査報告書4 長楽寺跡・地役人墓地」
（島根県・大田市両教育委員会、2004.3）
- ・「石見銀山街道調査報告書 鞆ヶ浦道・温泉津沖泊道」
（島根県教育委員会、2004.3）
- ・「石見銀山遺跡調査ノート」Vol.3（島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会、2004.3）
平成15年度に実施した石見銀山総合調査および関連事業の動向ほか
- ・「大田市大森銀山伝統的建造物群保存地区保存事業概報」No.66～72（大田市教育委員会、2004.3）
66・福田家納屋、67・城上神社稻荷社、68・西本寺本堂、69・川上家住宅、70・野澤家住宅、
71・中村家住宅、72・平井家住宅
- ・「石見銀山遺跡総合調査概報」4（島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会、2004.3）
- ・「石見銀山遺跡ニュース」
（島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会）
第5号（2003.5.7）
街道調査、佳境に
（1）現地踏査から（多田房明）、
（2）地質調査から（中村唯史）（3）文献調査から（佐伯徳哉）
総合調査から
（1）遺跡発掘調査（中田健一）（2）古文書・文献調査（仲野義文）
発掘調査のあゆみ（遠藤浩巳）
2/11公開シンポジウム、ここまでわかった石見銀山（大門克典）
鏝絵の魅力3（渡部孝幸）
温泉津町からのほっと情報 西田地区出土の蹄鉄
石見銀山遺跡調査活動日誌抄
シンポジウム「石見銀山の原像を探るー世界遺産登録をめざしてー」
- 第6号（2003.11.1）
総合調査から
（1）遺跡発掘調査（中田健一）
（2）文献調査（和田美幸）（3）石造物調査（石造物部会）
街道調査
（1）建造物調査（第3次）（浅川滋男）（2）街道調査（大門克典）
（3）文献調査（佐伯徳哉）

第2回石見銀山講座開催（瀧橋洋祐）

重要文化財旧熊谷家住宅保存活用事業（林 泰州）

町並みを歩く（5）～町並みを高台から眺める～（三谷岳史）

街道を歩く～本因坊道策の家～（的野克之）

鍍絵の魅力4（渡部孝幸）

温泉津町からのほっと情報 町並み工房（重田 聡）

石見銀山遺跡調査活動日誌抄

石見銀山遺跡の世界遺産登録に向けて（世界遺産登録推進室長岸本豪郎）

2. 個別論文・資料紹介・関連報告

・村上 隆「金工技術」『日本の美術』No.443（至文堂、2003.4.15）

科学の眼からみた金工技術について概説し、灰吹き法などにも触れる。

・田中圭一「石見銀山の脇役達－ユネスコ世界遺産暫定リスト掲載記念企画－3」『季刊文化遺産』第15号春・夏号（財団法人鳥根県並河萬里写真財団、2003.4.20）

・村上 隆「生産・産業遺跡における科学調査の在り方－世界遺産を目指す「石見銀山遺跡」の事例から－」『文化庁月報』7月号（通巻418）、文化庁編集、（株）ぎょうせい、2003.7.25）

・藤間 亨監修『阿国とその時代』（第9回出雲総合芸術文化祭 出雲阿国歌舞伎発祥四〇〇年記念事業、出雲文化伝承館、2003.4.19）

同展覧会図録、会期は2003.4.19～6.8。石見銀山のコーナーに、誓願寺策伝筆の石見銀山二代目奉行竹村丹後追悼文、重要文化財辻が花染丁字文道服（徳川家康から安原備中拝領）、石見銀山丁銀「御取納」刻印、大久保長安奉納のラシャ南蛮帽子・毛編み龍刺繍帽子を展示・解説する。

・鳥越俊行・村上 隆・高田潤「地質学的特徴を反映した石見銀山における製錬工程の材料科学的な研究」『日本文化財科学会第20回大会 研究発表要旨集』（日本文化財科学会、2003.5.17）

・村上 隆・鳥越俊行・横山精士・高田潤「SPring-8を利用した高エネルギー蛍光X線分析による銀製錬工程の検証」（同上所収）

・鳥越俊行・村上 隆・高田潤「石見銀山遺跡より出土した灰吹銀に関する材料科学的な研究」（同上所収）

・鳥越俊行・村上 隆・高田潤・恵谷泰典「広島県加計町寺尾遺跡における金属製錬の材料科学的な調査」（同上所収）

・松本岩雄・村上 隆・田村精一・中田健一・鳥谷芳雄「石見銀山遺跡における三次元計測の活

- 用」(同上所収)
- ・鳥谷芳雄「石見銀山遺跡」(最近話題を集めた島根県の遺跡より－大会開催地特別ポスターセッション、同上所収)
 - ・寺井 毅「戦争遺跡と矢滝城」『戦乱の空間』第2号(戦乱の空間編集会、2003.7)
 - ・大國晴雄「石見銀山御料銀山・大森絵図」(表紙写真解説)『郷土石見』No.63、石見郷土研究懇話会、2003.8.1)
 - ・松尾 登「江戸時代後期の石見銀山をめぐる二つの裁判(下)－大森銀山銀銅荷継越訴願－」(同上所収)
 - ・児島俊平「近世・石見の廻船研究(15)－温泉津湊の石州瓦と因・伯州の交易－」(同上所収)
 - ・仲野義文「石見銀山の銅山吹について」『日本鉱業史研究』No.46(日本鉱業史研究会、2003.8.15)
同研究雑誌には今回「小特集 別子銅山」が組まれているほか、今井典子「南蛮吹きの開発と意義に関する覚書」、植田晃一「ヨーロッパの鉱山博物館」などを所収。
 - ・林 泰州「大森銀山」『別冊太陽 日本の町並みⅡ』中国・四国・九州・沖縄(平凡社、2003.9)
 - ・大門克典「温泉津」(同上所収)
 - ・村上 隆・鳥越俊行・高田潤・勝部昭・大國晴雄「日本における近世非鉄貴金属製錬技術の体系化」『第6回国際鉱山ヒストリー会議赤平大会アブストラクト集』(於北海道赤平市、交流センターみらいかたらいホールほか、2003.9.26～27、オーラルペーパー)
 - ・柳平則子「江戸期佐渡金銀山における坑内揚水技術の変遷」(同上所収、オーラルペーパー)
 - ・滝川邦彦「江戸期佐渡「上相川」鉱山集落の構造について」(同上所収、オーラルペーパー)
 - ・斉藤本恭「明治初期佐渡金銀山の近代化遺跡について」(同上所収、オーラルペーパー)
 - ・植田晃一「江戸時代の佐渡金銀山絵巻に描かれている史的技術について」(同上所収、オーラルペーパー)
 - ・茶谷十六「『門屋養安日記』の世界－院内銀山町の生活と文化－」(同上所収、オーラルペーパー)

- ・ 島田竜登「18世紀のアジアと日本銅」(同上所収、オーラルペーパー)
- ・ 島根県文化財課世界遺産登録推進室「世界遺産暫定リスト入りの石見銀山遺跡」(同上所収、ポスターセッション)
- ・ 西江晃治「COPPER MINING TOWN FUKIYA'S HISTORIC PRESERVATION AND BENGARA MANSION NISHIE MANOR HOUSE」(同上所収、オーラルペーパー)
- ・ 萩慎一郎「MINING COMMUNITIES IN EARLY MODERN JAPAN」(同上所収、オーラルペーパー)
- ・ 本多博之「戦国・豊臣期の貨幣流通と東アジア貿易」『中国地域と対外関係』(山川出版社、2003.10)
- ・ 長谷川博史「日本地図から見た十六世紀の「中国地域」『中国地域と対外関係』(同上所収)
- ・ 秋山伸隆「戦国大名毛利氏の石見銀山支配」『中国地域と対外関係』(同上所収)
- ・ 赤坂正秀「石見銀山の地質と鉱床」『中国地域と対外関係』(同上所収)
- ・ 中島 哲「北東アジア学教義体系の構築と島根ー“しまね学”構築への試みー」『北東アジア学創世に向けて』(島根県立大学北東アジア学創成プロジェクト、2003.12)
 本稿は、北東アジア学教義体系構築の発想や方法論などを活用した島根に関する地域学構築(“しまね学”と仮称)を提起した論文で、その一つに「[石見銀山学]ー近世の風、世界的生産量を誇った銀山」を取り上げる。
- ・ 『安芸吉川氏とその文化ー広島県立歴史博物館展示図録第30冊』広島県立歴史博物館、2003.10
 第三章「毛利氏の経済基盤と吉川氏」のなかで、石見地区出土遺物、精錬炉跡、灰吹銀、「石見銀山納所高注文」(毛利博物館蔵)、銀地狛犬(厳島神社蔵)や、写真パネルとして「テイセラ日本図」、「元和年間石見国絵図」などを展示公開する。
- ・ 杉原 隆「石見銀山御料代官と朝鮮通信使」『郷土石見』第64号(石見郷土研究懇話会、2003.12.1)
- ・ 和田 孝「銀山料山中村における「申年より餓しん難渋覚帳について」(同上所収)
- ・ 「石見銀山」『原子力文化』Vol.34、No.12(財団法人日本原子力文化振興財団、2003.12.1)
- ・ 「魅力再発見! 銀の道へ行こう」『江の川文化圏会議サン太郎通信』No.36(江の川文化圏会議)

- 発刊、2004.1.23
- ・『週刊日本の街道88 石見銀山街道～尾道から温泉津へ～』（講談社、2004.2.10）
 - ・田中圭一「戦国時代の海外貿易と国内流通を変革した石見銀」（同上所収）
 - ・目次謙一「戦国時代を語る古文書（野村家文書・石見石田家文書）～古代文化センター新収蔵資料のご紹介」『NEWS』Vol.11（島根県古代文化センター、2004.1）
 - ・鳥越俊行、村上 隆、高田潤「Traditional Dressing Process of the Silver Ore in Iwami Silver Mine」『第20回日韓国際セラミックスセミナーアブストラクト集』（2003.11.20（木）～11.22（土）、於 島根県民会館）
 - ・「銀山街道」の発行（大田市外2町広域行政組合）
 - No.9（2003.6） 第2回石見銀山遺跡調査整備委員会開催
世界遺産登録までの主要課題など
 - No.10（2003.9） 全国大学生島根キャンプ2003－第2回石見銀山講座開催
圏域住民学習・体験事業－ふるさと体験ツアー－海から見た石見銀山
 - No.11（2003.12）「矢滝城山を登ってみよう。」開催
第3回石見銀山遺跡調査整備委員会開催
 - No.12（2004.3） シンポジウム「みんなで話そう石見銀山」
島根ふるさとフェア2004
 - ・「発掘銀山」（石見銀山発掘調査だより）の発行（石見銀山遺跡発掘調査事務所）
 - 第17号（2003.10） 石見銀山サポーター、はじめまして 岩橋孝典
これが発掘調査事務所だ 遺物の行方（その2）「接合」・「復元」など
 - 第18号（2004.1） 発掘まもなく10年。これからも・・・ 石見銀山課長 大國晴雄
貴鉛が出土しました！ 中田健一
 - ・「特集 大森銀山」『Blue Signal』No.92（西日本旅客鉄道株式会社、2003.11）
 - ①中世の世界地図に記された銀の町～島根県大田市大森町～
 - ②銀で賑わった港と歴史のある湯の駅～温泉津駅～
 - ・「産業遺跡の旅③石見銀山」『季刊碧い風』Vol.46（中国電力株式会社 経済研究センター、2003.11.1）
 - ・林 泰州「市民の手による活用を目指して－旧熊谷家住宅保存活用事業－」『文化庁月報』No.425、文化庁編集、2004.2.25）

- ・細見啓三「第十回講演会 大森・銀山地区保存の十六年」『日本伝統建築技術協会』第7号（日本伝統建築技術保存会事務局発行、2004.2.23）
- ・「パネルディスカッション 伝統建築の過去・現在・未来」（同上所収）
パネラー・龍 文子、林泰州、高橋好夫、後藤 治、細見啓三、後藤史樹（司会）
- ・仲野義文「石見銀山地役人について」『石見銀山遺跡石造物調査報告書4』（2004.3）所収
- ・和田美幸「文献史料からみた長楽寺」（同上所収）
- ・日次謙一「石見銀山関係の書状について」『石見銀山遺跡調査ノート3』（2004.3）所収
- ・遠藤浩巳「石見銀山遺跡の古植生の検討」（同上所収）
- ・鳥谷芳雄「羅漢寺五百羅漢の造立棟札について」（同上所収）

（補遺）

- ・和田嘉宥「民家から社寺建築まで－島根県の建造物の見どころ－『文化財講座特集号 文化財』（島根県文化財所有者連絡協議会、2003.3）
大森・温泉津の両町並み保存地区の見どころなどをスライドを交えて紹介。平成12年2月12日に開催された「第7回文化財講座」の講演記録。『季刊文化財第98号』掲載のものを再録する。
- ・原田洋一郎「江戸中後期における鉱山業関係者の移動に関する研究」『東京都立航空工業高等学校 平成14年度研究紀要』第40号（2003.3）

4. シンポジウム・講演会等

- ・シンポジウム「石見銀山の原像を探る～世界遺産登録をめざして～」

開催日時 2003.5.16 18:00～19:30

会場：島根県民会館大会議室

主催：島根県、島根県教育委員会

後援：大田市、大田市教育委員会、温泉津町、温泉津町教育委員会、仁摩町、仁摩町教育委員会、大田市外2町広域行政組合、日本文化財科学会、山陰中央新報社、朝日新聞松江支局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、中国新聞社、日本経済新聞社松江支局、共同通信社松江支局、時事通信社松江支局、新日本海新聞社、島根日日新聞社、NHK 松江放送局、山陰中央テレビジョン放送、山陰放送、日本海テレビ、テレビ朝日米子支局

趣旨

これまで、石見銀山の歴史は文献資料を中心に語られてきたが、近年、様々な角度から実施し

ている総合調査の結果は、いままでとは異なるイメージを提供するものであり、その調査の手法や内容は、日本における鉱山遺跡などの生産遺跡の調査研究をリードしつつあると言っても過言ではない。

石見銀山における総合調査が、これまでに何を明らかにし、現在、何が問題なのか。そして石見銀山における調査研究は、日本の鉱山遺跡調査の中で、今後、どのような役割を果たしていこうとするのか。考古学・歴史材料科学・資源工学の第一線の調査研究者が、石見銀山遺跡調査の現在と未来について語る。

(パネルディスカッション)

コーディネーター 岡部康幸 (山陰中央新報社論説委員)

パネリスト

田中義昭 (元鳥根大学法文学部教授、石見銀山遺跡調査整備委員会委員、考古学)

村上 隆 (奈良文化財研究所主任研究官、石見銀山遺跡調査整備委員会委員、歴史材料科学)

井澤英二 (九州大学名誉教授、資源工学)

遠藤浩巳 (大田市石見銀山課石見銀山係長、考古学・文献史学)

勝部 昭 (鳥根県文化振興財団事務局長)

- ・大國晴雄「未来に引き継ぐ石見銀山ー世界遺産へー」産業遺産の世界遺産シンポジウム“世界遺産の視点から浦賀ドックを考える”

主催：浦賀ドック野外船舶技術ミュージアム設立推進会議

日時：12.13 (土) 午後3.00～5.00、於横須賀市若松町

日本初ー産業遺産の世界遺産登録を申請した鳥根県大田市の取り組みについて基調講演を行う。

- ・岩城卓二「大森代官所の郷宿」(2003年度鳥根近世史研究会記念講演、於松江テルサ会議室、2003.7.27)

- ・渡部孝幸「石見地方の饅絵について」(平成15年石見郷土研究懇話会大田大会研究発表、於大田市三瓶町国民宿舎さんべ荘、2003.9.6)

- ・本多博之「毛利領国における銀流通と米の機能」(2003年度広島史学研究会大会日本史部会研究発表、於広島市広島大学、2003.10.26)

- ・目次謙一「大内・尼子・毛利氏の争いと古文書」(講座「博物館ゼミナール」、於鳥根県立博物館、2003.10.25)

鳥根県立博物館スポットコーナー「県立博物館でみる戦国武将たち」に伴う講座。同コーナーでは石見銀山に関係した、永禄12年(1569)「毛利元就書状」(石見石田家文書)など、5点が展示された。10月25日には「大内・尼子・毛利氏の争いと古文書」と題して講座博物館ゼミナールを開催、講師は目次謙一。

・田中圭一「温泉津の町衆」(「温泉津の歴史講座」、主催・温泉津の町並み保存を実現する会、2004.2.10(火)、於温泉津公民館)

・全国大学生島根キャンプ2003「第2回石見銀山講座」

期間：2003年8月17日(日)～21日(木)・4泊5日

主催：島根県大田市外2町広域行政組合

共催：島根県・島根県教育委員会・大田市・大田市教育委員会・温泉津町・温泉津町教育委員会・仁摩町・仁摩町教育委員会・石見銀山資料館

協力：国立三瓶青年の家

目的：この講座は、かつて世界にその名を知られた石見銀山に、全国の大学生や大学院生を迎え、豊富な歴史素材に触れながら各講座を受講していただき、総合調査や研究に接する機会を提供することを目的としたものです。また、この石見銀山講座に参加した皆様が、石見銀山の歴史と文化を、全国に伝えていただけると期待するものです。ここ、石見銀山遺跡は、2001年4月、世界遺産暫定リストに記載され、世界遺産登録に向け、発掘、調査、研究がなされています。

募集対象 大学および大学院で考古学・歴史・建築史などを専攻し、石見銀山に関連する分野に関心のある人。

募集定員 50名

(カリキュラム)

○8月17日(日)[第1日目]

16:00 参加者集合・受付開始(国立三瓶青年の家)

17:00 開講式・基調講演－「銀・銅・鉄と島根の遺跡」

講師：田中義昭(元島根大学教授)

○8月18日(月)[第2日目]

9:00 フィールドワークー銀山地区ほか 18:30 交流会

○8月19日(火)[第3日目]

9:00 各調査報告

①文献調査 「石見銀山の歴史文献調査について」 和田美幸(県文化財課)

②石造物調査 「石見銀山遺跡石造物調査の概要」 鳥谷芳雄(同上)

③発掘調査 遠藤浩巳・中田健一(大田市石見銀山課)

④町並み 渡部孝幸(大田市都市計画課)・三谷岳史(大田市石見銀山課)

13:00 熊谷家見学・講座1－「熊谷家の家財とくらし」

講師：小泉和子(京都女子大学教授)

19:00 一般公開講座－「外国人の見た石見銀山」

講師：村井章介(東京大学教授)

○8月20日(水)[第4日目]

9:00 講座2－「近世金属生産遺跡の科学調査～石見銀山遺跡を中心に～」

講師：村上隆(奈良文化財研究所主任研究官)

10:30 実習－石見銀山遺跡出土遺物の科学的調査研究・灰吹法原理の実演

13:00 積出港の見学－石見銀山（大森町）→鞆ヶ浦（仁摩町）→沖泊港（温泉津町）

○8月21日（木）[第5日目]

10:00 講座3－「三瓶の自然」講師：中村唯史（県立三瓶自然館指導員）

11:00 閉講式

小豆原（あずきはら）埋没林現地見学

・「第23回全国豊かな海づくり大会島根大会」（主催：豊かな海づくり大会推進委員会・島根県、
後援：農林水産省、会場：浜田漁港、2003.10.5）

「石見銀山世界遺産登録をめざす会」がパネル展示に参加。

1. 「世界史の中の石見銀山」1「銀鉱山王国と日本」、2「南蛮貿易と日本銀」、3「ヨーロッパ人の見た石見銀山」、4「甦る石見銀山」、5「銀の生産」、6「鉱山町の暮らしと文化」
2. 「世界遺産登録に向けて」

・銀精錬技術「灰吹法」原理の実演（大田市外2町広域行政組合）

・「シンポジウムみんなで話そう石見銀山」

日時 平成16年2月8日（日） 10:00～16:30

会場 大田市大田町・大田商工会館

《第1部》調査等報告・「ここまで分かった石見銀山Ⅱ」

1. 発掘調査「石見銀山遺跡発掘調査」中田健一（大田市石見銀山課）
2. 文献調査「文献調査の概要と成果」仲野義文（石見銀山資料館学芸員）
3. 科学調査「生産・産業遺跡における科学調査のあり方 世界遺産をめざす『石見銀山遺跡』の事例から」村上 隆（奈良文化財研究所主任研究官）
4. 石造物調査「平成15年度の石造物調査」鳥谷芳雄（県教育庁世界遺産登録推進室）
5. 街道・港湾調査「街道と港の調査」佐伯徳哉（県教育庁世界遺産登録推進室）
6. 旧熊谷家住宅保存修理「重要文化財 旧熊谷家住宅保存修理」高橋好夫

（文化財建造物保存技術協会）

《第2部》シンポジウム「みんなで話そう石見銀山」

【コメンテーター】

村上 隆（奈良文化財研究所主任研究官）

【パネリスト】

高橋美也子（石見銀山遺跡調査整備委員会委員、サンレディ大田館長）

仲野 義文（石見銀山資料館学芸員）

田中 裕子（オフィスタナカ代表）

多田 房明（石見銀山遺跡街道調査員）

足立 克己（島根県教育庁文化財課世界遺産登録推進室）

遠藤 浩巳（大田市石見銀山課）

【司会】

大國 晴雄（大田市石見銀山課）

・「守ろう石見銀山遺跡～遺跡の保全活動に参加しませんか～」

主催：島根県川本総務事務所

共催：石見銀山世界遺産をめざす会

○銀山遺跡の保全活動 10：00～12：00

明治時代の「三木工場」の竹切りと、周辺地域のゴミ拾いなどを行う。男性のみならず、女性や子供の方も気軽に参加。ノコギリ、ナタなど、有れば持参。保全活動定員70名。

○竹炭焼き体験 13：00～16：00

遺跡保存と環境保護を一つにした、新しいプロジェクト。みんなで遺跡を壊す竹を伐採して、竹炭に変身させてみる。完成した竹炭は脱臭剤、水質浄化剤として地域に還元される。定員20名。

趣旨：石見銀山遺跡は、多くが鬱そうとした竹藪の中に埋もれている。当時の住居跡や間歩など、せっかくの遺構もそうした竹木に覆われたままの状態になっている。また、放置した竹根は貴重な遺構をも破壊させ、将来には何も残らなくなってしまう危険性もある。そうなる前に竹から遺跡を守ることが必要である。

この活動は、世界的に優れた石見銀山遺跡を、多くの人々の手で保全することを目的として行うものである。と同時に、切った竹は資源として竹炭に代えることで、生活環境の保全にも役立てる。楽しく出来る遺跡や環境の保全に、みなさんも是非参加してみよう。

・シンポジウム 『生産遺跡から探る「モノづくり」の歴史』第1回－金山・銀山の技術－

日時：平成16年2月29日（日）10：00～17：00

場所：帝京大学山梨文化財研究所

〒406-0032 山梨県東八代郡石和町四日市場1566 TEL：055-263-6411

主催：文部科学省科学研究費特定領域研究「我が国の科学技術黎明期資料の体系化に関する調査・研究」（通称：「江戸のモノづくり」）計画研究『生活生産遺跡出土資料研究に基づく近世科学技術の比較研究の総合化』 研究代表：村上 隆

（プログラム）

開催挨拶・基調講演 「生産遺跡」から学ぶもの 村上隆（奈良文化財研究所）

特別講演Ⅰ 現代鉱業からみた近世鉱山技術 井澤英二（九州大学名誉教授）

特別講演Ⅱ 東国の金山遺跡を巡る技術 萩原三雄（帝京大学山梨文化財研究所長）

特別講演Ⅲ 湯之奥金山遺跡の調査研究 谷口一夫（甲斐黄金村湯之奥金山博物館館長）

事例報告 佐渡上相川遺跡の発掘調査 滝川邦彦（新潟県相川町佐渡金銀山課）

島根県石見銀山遺跡における発掘調査 遠藤浩己（島根県大田市石見銀山課）

捨てられたモノから探る技術－石見銀山遺跡の事例を中心に－ 村上隆

パネルディスカッション パネリスト：全講演者 コーディネーター：村上 隆

(開催趣旨)

歴史的な「モノづくり」の技術的な側面を研究するにあたって、もっとも基本的なアプローチとして、文書や絵巻などの記録文献の調査とともに、コレクションなど、伝世する資料に対する調査が挙げられよう。しかし、最近の考古学調査では、実際に「モノ」を製作していた「生産遺跡」を発掘することも多くなり、文献や伝世資料だけでは窺いしれない資料が出現する機会が増えてきた。実際に、世界遺産の暫定リストに登録された島根県石見銀山遺跡では、発掘資料に対する科学的調査によって、これまで文献からのみ推定していた近世の銀製錬工程の解明が進み、大きな成果を生み出しつつある。さらに、これまでの伝世資料の比較的検討対象の拡がりを図る上でも、発掘資料に対する調査・研究の重要性が理解できるであろう。金、銀、銅を産出した鉱山遺跡を中心に、陶磁器や顔料など、さまざまな「モノ」を製作した「生産遺跡」を巡って、そこで展開された「モノづくり」の技術を歴史的に俯瞰し、比較検討する契機を提供する目的で、本シンポジウムを企画した。なお、本シンポジウムはシリーズ化し、平成17年度までには少なくとも3回の開催を計画している。

・文化講演会「わが町の再発見～地域の歴史や文化を通じて～」

日時：平成16年3月14日（日）15：00～17：30

場所：大田市祖式町 祖式公民館

(第1部) 世界遺産講座 15：00～15：20

「世界遺産を目指す石見銀山遺跡」 鳥谷芳雄

(第2部) 地名から探ろう地域の歴史 15：30～16：30

講演 「村に残る資料から、村の歴史を探るー私の調査の事例からー」

田中達也（大東文化大学経済学部専任講師）

座談会 16：30～17：30 「語ろう祖式町の地名」

(進行役) 多田房明、仲野義文

主催：島根県川本総務事務所

共催：石見銀山世界遺産をめざす会

・世界遺産候補石見銀山遺跡国際シンポジウム

「世界遺産と石見銀山遺跡～郷土の遺産から世界の遺産へ～」

日時：平成16年3月21日（日）13：00～17：00

場所：くにびきメッセ3F 国際会議場（松江市学園南） 入場無料 参加者380名

開会【13：00～】

挨拶 島根県知事 澄田信義

挨拶 石見銀山遺跡調査整備委員会委員長 田中 琢

基調講演【13：10～】

「世界遺産条約と推薦のプロセス」 アレッサンドロ・バルサモ

「都市のマネジメント～鉱山都市を中心に～」 ユッカ・ヨキレット

「アジアの世界文化遺産・文化的景観～アフガニスタン・バーミヤンの遺跡

を中心に～」稲葉 信子

パネルディスカッション【15：20～】

(パネリスト)

○アレッサンドロ・バルサモ

ユネスコ世界遺産センター（政策法令実務ユニット、暫定リスト・推薦書担当）。1996年から世界遺産センターで、暫定リストや世界遺産リストの登録業務に携わる。主に、暫定リスト・登録リストの記録の管理、新規申請書の審査や助言等を担当。

○ユッカ・ヨキレット

イコモス（国際記念物遺跡会議）アドバイザー（専門：都市の保護と都市計画）＊ユネスコ世界遺産委員会やイコモスにおけるイクロム総代として、各国から提出される世界遺産の推薦書の全てに目を通し、評価する立場にある。

○稲葉 信子

独立行政法人東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センター企画情報研究室長（専門：建築、建築史）日本イコモス国内委員会理事会理事＊2000年から2002年までイクロムに出向し、プロジェクトの構築を担当。文化庁建造物課在任中には「大森・銀山地区重要伝統的建造物群保存地区」の整備も担当されており、石見銀山遺跡についても詳しい。

(コーディネーター)

○西村 幸夫

東京大学大学院教授（専門：都市計画、都市保全計画）イコモス副委員長、文化審議会専門委員、国土審議会専門委員 ＊これまで何回か石見銀山遺跡を視察しておられ、また、平成14年8月には大田市外2町広域行政組合主催の「石見銀山公開講座」に講師として招かれ「世界遺産とまちづくり」というテーマで講演をされている。

主催：島根県・島根県教育委員会

後援：文化庁・大田市・大田市教育委員会・温泉津町・温泉津町教育委員会・仁摩町・仁摩町教育委員会・朝日新聞松江総局・毎日新聞松江支局・読売新聞松江支局・産経新聞松江支局・山陰中央新報社・中国新聞社・日本経済新聞社松江支局・共同通信社松江支局・時事通信社松江支局・新日本海新聞社松江支社・島根日日新聞社・NHK松江放送局・山陰中央テレビ・山陰放送・日本海テレビ・テレビ朝日米子支局・エフエム山陰

協力：(財)しまね国際センター

なお、このシンポジウム参加者に限り「石見銀山遺跡探索ツアー」の参加者60名を募集。実施日は4月10日（土）・11日（日）の予定。

V 平成15年度石見銀山遺跡調査等関係者

石見銀山遺跡調査整備委員会

- 委員長 田中 琢（元奈良国立文化財研究所長）
委員 田中 圭一（元群馬県立女子大学教授）
委員 田中 義昭（元鳥根大学法文学部教授）
委員 脇田 晴子（滋賀県立大学教授）
委員 藤岡 大拙（鳥根県立鳥根女子短期大学長）
委員 青柳 正規（東京大学教授）
委員 斎藤 英俊（東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センター長）
委員 高橋美也子（サンレディ大田館長）
委員 牛川 喜幸（京都橘女子大学教授）
委員 村上 隆（独立行政法人奈良文化財研究所主任研究官）
委員 末澤 和政（同和鉱業株式会社コーポレートスタッフ管掌取締役）
委員 熊谷 國彦（鳥根県大田市長）
委員 安田 増憲（鳥根県温泉津町長）
委員 池亀 貴（鳥根県仁摩町長）
委員 勝部 昭（鳥根県文化振興財団事務局長）

○歴史文献調査関係（石見銀山歴史文献調査団）

- 団長 脇田 晴子
副団長 田中 圭一
事務局 岩屋さおり（大阪大学非常勤講師、城西国際大学非常勤講師）

（鳥根県内・日本国内調査）

- 原田洋一郎（東京都立航空工業高等専門学校助教授）
小林 准士（鳥根大学助教授）
岩城 卓二（大阪教育大学助教授）
船杉 力修（鳥根大学講師）
仲野 義文（石見銀山資料館学芸員）
和田 美幸（県文化財課世界遺産登録推進室嘱託）
山崎 美和（石見銀山資料館職員）
岩屋さおり
伊田昌文、江角知紀、勝部裕子、庄司幸恵、須山敦子、瀧本裕氏、藤原健太、松原祥子、森田隆
広（以上、鳥根大学学生）、藤原雄高（奈良大学学生）

（海外関係者）

- 田中 俊明（滋賀県立大学教授）
ヨリッセン・エンゲルベルト（京都大学大学院助教授）
林田 雅至（大阪外国語大学助教授）

龐 新平（神戸大学非常勤講師）
大西 信行（中央大学杉並高等学校教諭）
藤田加代子（日本学術振興会特別研究員）
岡 美穂子（東京大学史料編纂所助手）
岩屋さおり

（調査補助）

大田洋子、龍 文子、西村典子

（校正）

岡村美智代

○発掘調査関係

田中義昭（総括） 小池伸彦（奈良文化財研究所研究員、発掘調査指導） 坂井秀弥（文化庁
記念物課主任文化財調査官、調査整備委員会指導助言） 加藤真二（文化庁記念物課調査官、調
査整備委員会指導助言）

大國晴雄 遠藤浩巳 中田健一 尾村 勝 松尾賢二 熊谷雅美
足立克己 広江耕史 岩橋孝典

○科学調査関係

村上 隆（総括） 高田 潤（岡山大学工学部教授） 鳥越俊行（仮称九州国立博物館設立準
備室研究員） 横山精士（岡山大学工学部大学院生）

大國晴雄 遠藤浩巳 中田健一 尾村 勝 松尾賢二 熊谷雅美 足立克己
鳥谷芳雄 椿 真治 沢田正明 柴崎晶子

○石造物調査関係

田中義昭（総括） 池上 悟（立正大学教授） 宮本徳昭（鳥根県文化財保護指導委員）

仲野義文 和田美幸 広江耕史 椿 真治

吉岡 寛（大森町文化財保存会会長）

高橋陽一 宮崎友宣 内田勇樹 山賀和也 山田隆博 清水慎也 片岡瑞樹

大坪華子 小島道子（以上、立正大学大学院生・学部生）

遠藤浩巳 中田健一 尾村 勝 松尾賢二 鳥谷芳雄 足立克己 和田美幸

○街道調査関係

藤岡大拙（調査団長・総括） 池橋達雄（元鳥根県歴史の道調査委員）

（歴史文献関係）

佐伯徳哉 仲野義文 和田美幸 黒田祐一（国立松江高等専門学校地理） 山下和秀（大
社町教育委員会） 新庄正典（松江市教育文化財団）

（建造物関係）

浅川滋男（鳥取環境大学教授）

(石造物関係) 宮本徳昭 (民俗関係) 多田房明 (江津市立跡市小学校)
(歴史美術関係) 的野克之 (鳥根県文化振興課) (自然関係) 中村唯史 (三瓶自然館)
(全体指導)

磯村幸男 (文化庁記念物課主任文化財調査官)

伊藤正義 (文化庁記念物課文化財調査官)

○世界遺産登録推薦書作成専門委員会 (事務局・県世界遺産登録推進室)

藤岡大拙 (委員長、鳥根女子短大学長・中世史)

脇田晴子 (滋賀県立大学教授・中世史)

青柳正規 (東京大学大学院教授・ギリシャローマ美術史、美術史世界遺産)

斎藤英俊 (東京文化財研究所・国際文化財保存修復協力センター長・保存、修復、世界遺産)

西村幸夫 (東京大学大学院教授・都市工学、世界遺産)

村上 隆 (奈良文化財研究所主任研究官・保存科学)

○石見銀山遺跡関係次長会議 (事務局・県世界遺産登録推進室)

山根 泉 (政策企画局・統括政策企画監) 木次健悦 (地域振興部・次長)

松原芳久 (環境生活部・次長) 澤江邦雄 (農林水産部・農林水産総務課調整担当)

高橋 研 (商工労働部・次長) 永田敦夫 (土木部・次長) 金築 孝 (教育委員会次長)

○史跡石見銀山遺跡保存管理計画策定委員会 (事務局・大田市石見銀山課、10月に組織改正、*は新任)

藤岡大拙 (委員長) 牛川喜幸 岸 政彦 (同和鉱業本社総務部門法務部門部長)

岸本豪郎 (県文化財課世界遺産登録推進室長) 大谷正行 (大田市建設部長)

玉串 昭 (県大田土木建築事務所所長) 原 敏夫 (大田市議会議員) 吉岡 寛 (大森町文化財保存会会長)

高場 稔 (大森町自治会協議会会長) 高橋美也子 (大田市文化財審議会委員)

*横田 剛 (馬路地区自治協議会会長・仁摩町) *黒瀬雅實 (大田地区自治会会長代表・仁摩町)

*松井東司彦 (仁摩町議会議員・仁摩町) *山崎光造 (温泉津公民館館長・温泉津町)

*中井秀三 (湯里公民館館長・温泉津町) *木ノ下重治 (温泉津町町議会議員・温泉津町)

*平澤麻衣子 (元奈良文化財研究所研究員・東京都)

(全体指導) 磯村幸男 (文化庁記念物課主任文化財調査官)、伊藤正義 (文化庁記念物課文化財調査官)

○重要文化財旧熊谷家住宅保存活用検討委員会 (事務局・大田市石見銀山課)

渡辺常弘 (委員長、伝建審会長) 福田 実 (副委員長、大田市議会議員) 細見啓三 (市文化財保護審委・伝建審委員、建築)

小泉和子 (京都女子大学教授、生活史) 小林准士 (鳥根大学法文学部助教授、文献史学)

龍 文子 (大森町) 蓮花正晴 (大田市助役) 松本陽三 (大田市教育長)

○大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会（事務局・大田市石見銀山課）

渡辺常弘（会長・学識経験者） 吉岡 寛（大森町文化財保存会会長） 恒松志良（学識経験者） 白石昭臣（大田市文化財審議会委員） 河村政経（大森町観光開発協会会長） 細見啓三（学識経験者・元奈良文化財研究所室長） 宍道正年（鳥根県教育庁文化財課長） 原敏夫（大田市議会議員） 平本映子（学識経験者）

○温泉津町並み保存審議会（事務局・温泉津町教育委員会）

尾川隆康（地元建築家） 明楽文教（町文化財保護審議会会長） 山形俊枝（町並み保存を実現する会会長） 山崎久義（上町） 福富照子（湯町） 山崎光造（法泉町） 益田康男（中町） 和田俊二（稲荷町） 原田 勝（寺町） 小川良知（本町） 山崎益身（沖浦） 森崎濟璋（商工会会長） 河原直泰（観光協会会長） 安田秀孝（町議） 田中博幸（町議） 佐々木孝久（町議） 木ノ下晴重（町議） 坪内敬夫（町教育委員会委員長） 樋野輝男（助役） 富田正治（総務課長） 小松平次（建設課長）

鳥根県教育委員会

宍道正年（文化財課長） 岸本豪郎（同世界遺産登録推進室長） 吉川 広（同室課長補佐、11月より） 足立克己（同主幹、8月より） 鳥谷芳雄（同主幹） 中田行宏（同主幹） 佐伯徳哉（同文化財保護主事） 太田俊介（同主任主事、11月より） 祖田浩志（同課長補佐） 和田美幸（同嘱託） 宮沢明久（同課長補佐、兼文化財係長） 岡本成生（同係主任主事） 間野大丞（同文化財保護主事） 広江耕史（同埋蔵文化財係長） 宍道正年（教育庁埋蔵文化財調査センター所長） ト部吉博（同副所長） 椿 真治（同企画調整係長） 沢田正明（企画調整補助員） 柴崎晶子（同補助員） 岩橋孝典（古代文化センター主任研究員）

鳥根県併任者（8月より）

細田敬二（地域政策課、課長補佐） 平尾隆司（交通対策課・主査） 須川富徳（土地資源対策課・課長補佐） 土屋高明（国際課・課長補佐） 井川勝己（景観自然課・主幹） 小塩真一郎（農地整備課・課長補佐） 森脇偉之（森林整備課・係長） 持田 宏（漁港漁場整備課・主幹） 中西敏雅（観光振興課・課長補佐） 森脇光成（産業振興課・主幹） 有田聡（用地対策課・課長補佐） 田中忠夫（道路維持課・主幹） 今若芳之（道路建設課・主幹） 平田知昭（河川課・主幹） 土肥美実（港湾空港課・主幹） 江角 功（砂防課・主幹） 石田弘至（都市計画課・主幹）

大田市役所総務部・大田市教育委員会

大國晴雄（総務部石見銀山課長） 田中純一（同課長補佐） 西村崇司（世界遺産係長） 林 泰州（同主任主事） 三谷岳史（同主事） 遠藤浩巳（石見銀山係長） 中田健一（同主任技師） 松田洋子（臨時職員） 松本陽三（教育委員会教育長） 大國晴雄 遠藤浩巳 中田健一 西村崇司 林 泰

州 三谷岳史 尾村 勝（補助員） 松尾賢二（同） 熊谷雅美（同）

温泉津町教育委員会

小川和邦（教育長） 友村光男（教育次長） 柳井宗生（社会教育係長） 重田 聡（同主事） 大門克典（同主事）

仁摩町教育委員会

尾川綽一（教育長） 尾川信治（教育次長） 宮本春樹（教育次長補佐、兼社会教育係長）
長嶺康典（主任主事） 新林尚美（臨時職員）

大田市外2町広域行政組合

岡本彰弘（次長） 田中純一（次長補佐） 今田善寿（企画班地域振興係主任） 瀧橋洋祐
（同主事） 守田大志（臨時職員）

関係機関連絡先

島根県教育庁文化財課世界遺産登録推進室（〒690-8502 松江市殿町1番地）
TEL.0852-22-5642 FAX.0852-22-5794
<http://www2.pref.shimane.jp/ginzan/> E-mail:bunkazai@pref.shimane.jp

大田市総務部石見銀山課（〒694-0064 大田市大田町口1111）
TEL.0854-82-1600（内線338） FAX.0854-84-9156
<http://ohda.iwamigin.or.jp/> E-mail:ohda@iwami.or.jp

大田市教育委員会文化振興室（〒694-0064 大田市大田町大田口1111）
TEL.0854-82-1600（内線326） FAX.0854-82-5395
E-mail:o-bunka@iwamigin.or.jp

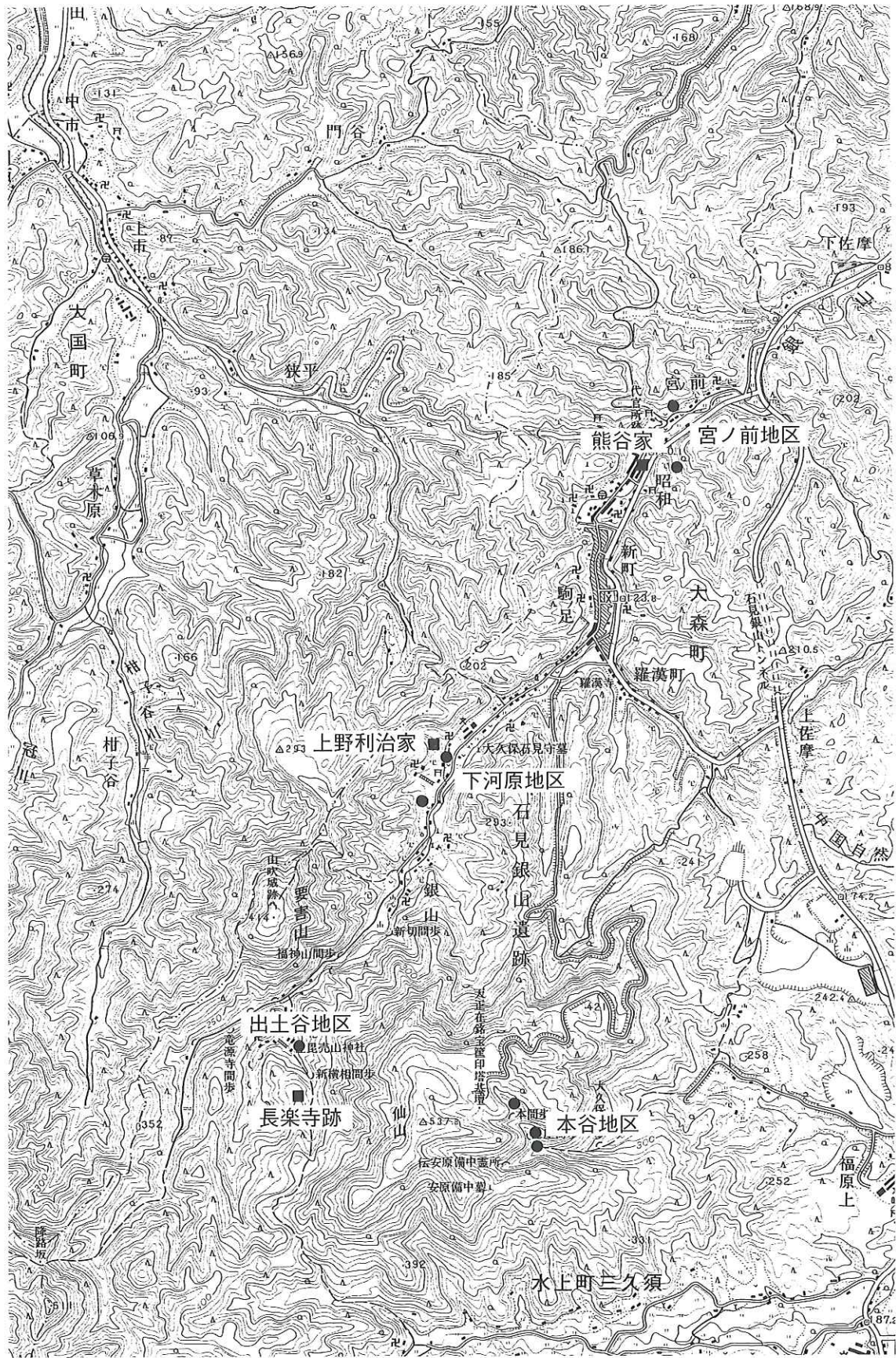
石見銀山遺跡発掘調査事務所（〒694-0305 大田市大森町イ826）
TEL.0854-89-0899 FAX.0854-89-0902

温泉津町教育委員会社会教育係（〒699-2598 邇摩郡温泉津町温泉津大字小浜イ486）
TEL.0855-65-2177 FAX.0855-65-1073
E-mail:yunotsu@iwamigin.or.jp

仁摩町教育委員会社会教育係（〒699-2301 邇摩郡仁摩町大字仁万町537-1）
TEL.0854-88-2113 FAX.0854-88-4276
E-mail:syakai-e@nima-cho.ne.jp

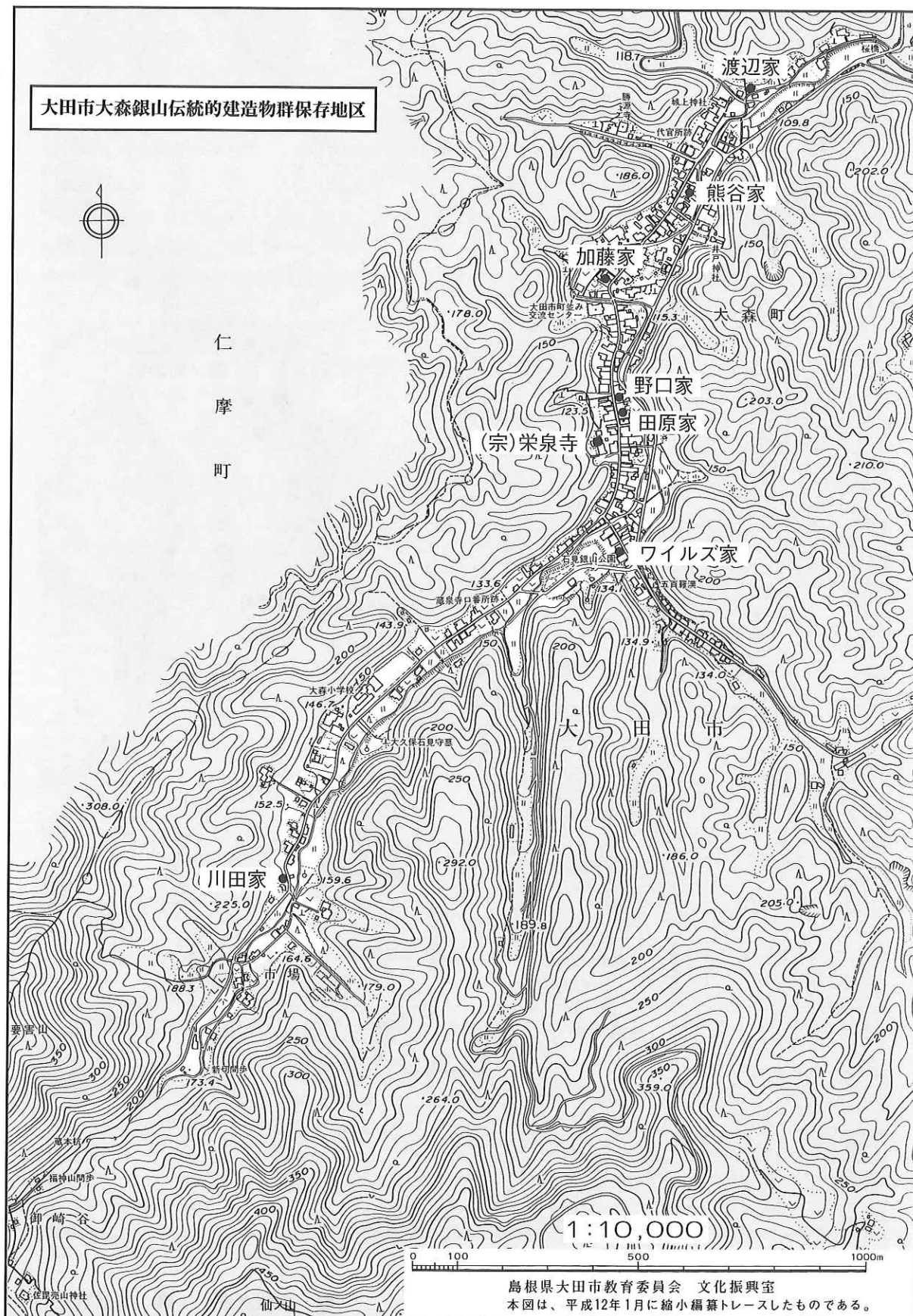
石見銀山資料館（〒694-0305 大田市大森町ハ 51-1）
TEL.0854-89-0846 FAX.0854-89-0159
<http://www.fish.miracle.ne.jp/silver/> E-mail:silver@tx.miracle.ne.jp

大田市町並み交流センター（〒694-0305 大田市大森町イ490）
TEL.0854-89-0330 FAX.0854-89-0164



● 発掘調査 ■ 文献調査

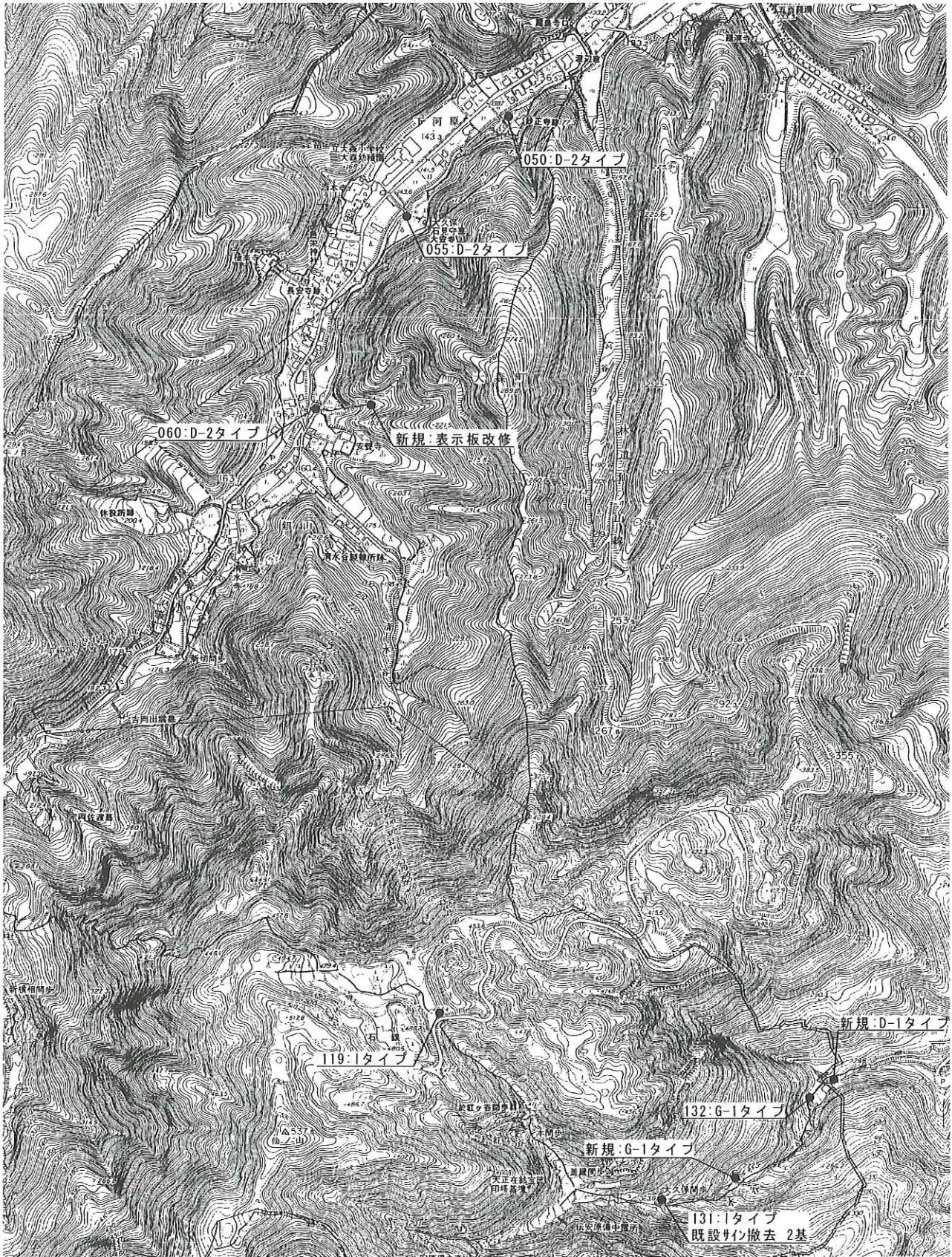
VI-1 平成15年度 石見銀山遺跡調査箇所位置図 (S=1/25,000)



VI-2 平成15年度 石見銀山遺跡関連箇所位置図 (p13重伝建事業関係)



Ⅶ 石見銀山街道（鞆ヶ浦道・温泉津沖泊道）ルート図（1:50,000）



Ⅷ 平成15年度 サイン整備事業設置箇所位置図

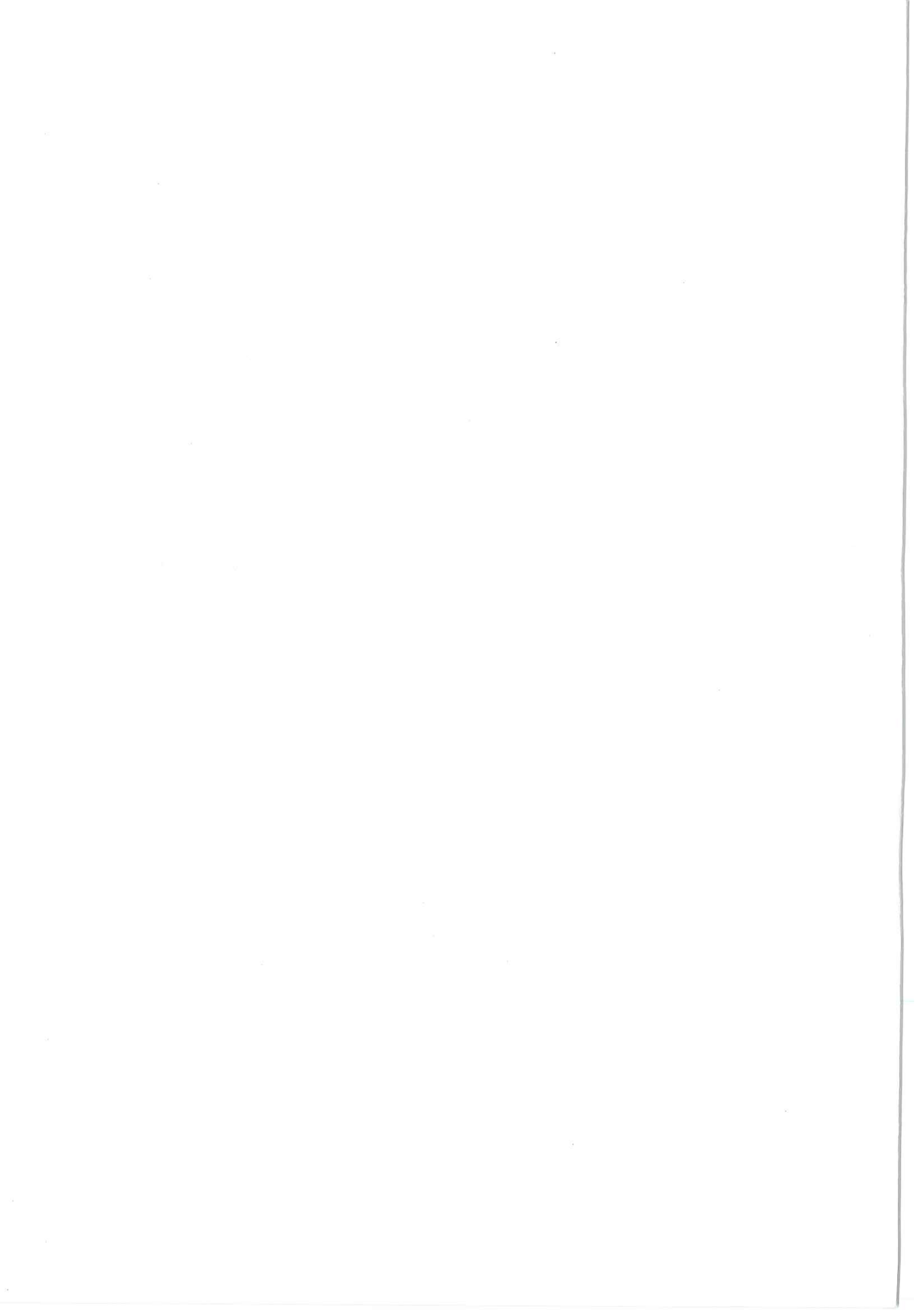
平成16年(2004)3月発行

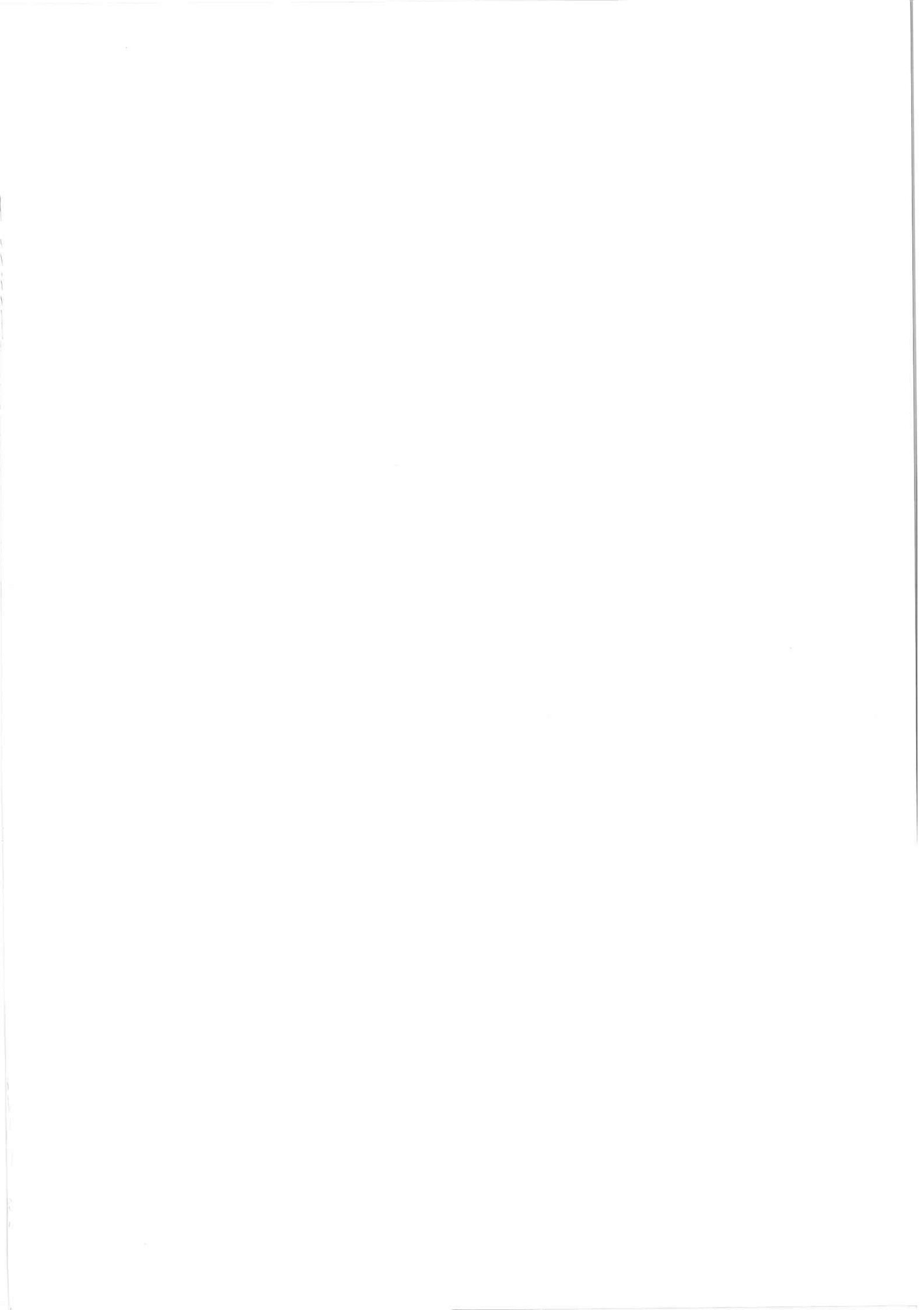
石見銀山遺跡調査ノート3

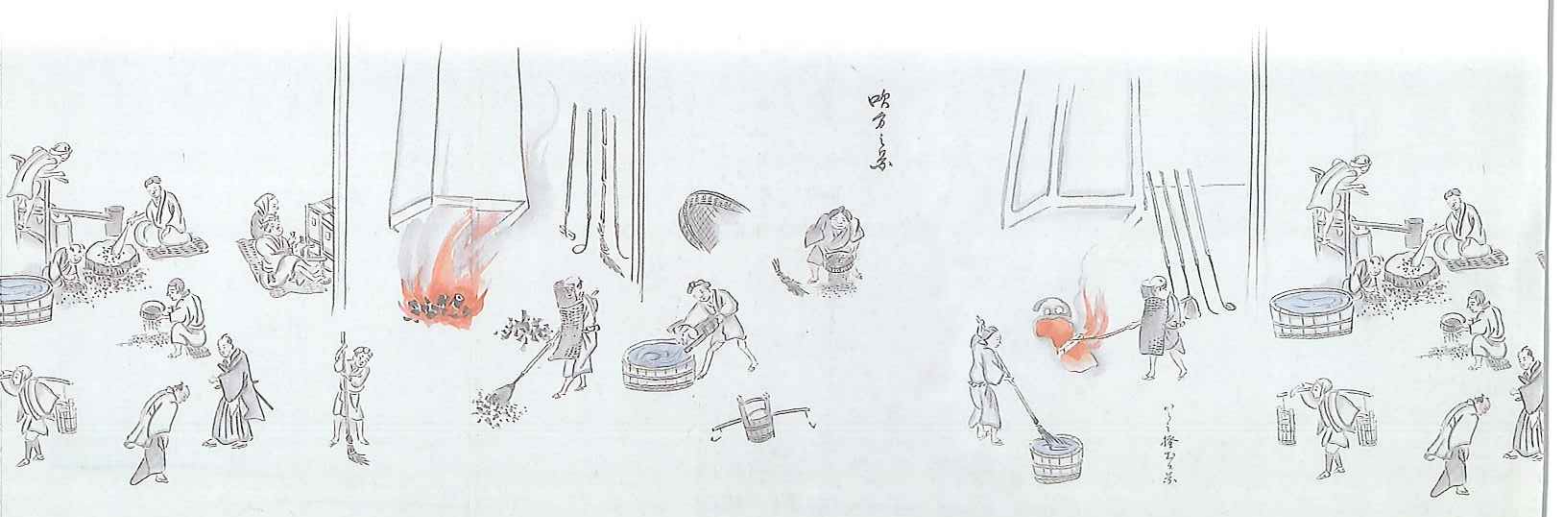
Iwami-Ginzan Silver Mine Site Research Note Mar. 2004 No.3

発行 島根県教育委員会
大田市教育委員会
温泉津町教育委員会
仁摩町教育委員会

印刷 株式会社 報光社
〒691-0001 島根県平田市平田町993
phone 0853-63-3939







明方之茶

いづれも茶